

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	商店街（代表者）	・気温による影響が大きいと見込まれるが、ツイードやチェックなど、今年の秋のトレンドが現時点ではっきりしているため、ある程度動きが出てくる。 ・観光シーズンに入り、観光客の来店が前年よりも増えていることから、天候次第の面もあるが、今後についてはやや良くなる。
		スーパー（店長）	・カードポイントの効果で、ビールのケース買いや米の大口買いなどが増えているため、今後も期待できる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・トップシーズンということで、宿泊客、ゴルフ客が伸びを示している。企画商品に特典等をプラスして販売量を増やす施策が受け入れられており、今後についても期待できる。
		その他サービスの動向を把握できる者	・旭山動物園を訪れる観光客の訪問地が道北エリア全体まで拡大していること、海外客が増加していることから、よほどの天候の崩れがない限り、好転する。
	変わらない	一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから、売上が苦戦している状況が続いていることから、今後についても厳しいまま変わらない。
		百貨店（売場主任）	・消費マインドは依然として冷え切っている。元々の物余り傾向に加えて、値上げ傾向の商品が増えており、どうみても今以上の商況は見込めない。
		スーパー（役員）	・今後2～3か月での変化は考えられないが、今後も食料品の値上げは続くことと見込まれること、灯油やガス料金、電気料金の値上げが発表されていることから、食費に影響してくることは間違いなく、年末に向けて不安材料が多い。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこ自販機のタスポ導入で来客数も販売額も大きく増加している。しかし客1人当たりの購入額は前年を下回っている。価格の安い商品や値上げしていない商品以外は良くない。依然として消費者の節約志向は続いていることから、安心できない状況にあり、景気が回復するという期待は持てない。
		コンビニ（エリア担当）	・現在の来客数の増加はタスポ普及率の低さに起因している。九州の事例から、今後の普及率の上昇は確実であり、その分現在の好調さは陰りがみえてくる。しかしながら、それまでに新規客の固定客化を進めていくことや周辺同業他社の衰退が進むことで、ある程度の維持は図れる。
		コンビニ（エリア担当）	・依然としてガソリン高騰の影響が大きく、昼食の消費もおにぎりやパンなど単価の低い商品にシフトしている。低価格の商品の動きが良いが、売上ほど利益に寄与していないことから、今後についても変わらないまま推移する。
		コンビニ（オーナー）	・今の状況から、猛暑になるなど、特別な何かがない限り、販売量の動きは変わらない。また夜の来客数の減少が顕著に表れており、今の経済状況のなかで物価の高騰がかなり響いていることがうかがえる。これらのことから、今後については厳しいまま変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・上向くような好要素がないため、気温の高い日が続くなどの外的要因がない限り、現状のままで推移する。
		家電量販店（店長）	・物価の上昇気配は収まらないことから、この数か月と変わらず買い控えが続く。
		家電量販店（店員）	・例年より暑くなるとみられるため、エアコンや冷蔵庫に期待できる。またオリンピック需要も期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・物価上昇の影響で、売上に歯止めが掛かっていることから、今後についても厳しいまま変わらない。
		住関連専門店（従業員）	・物価の値上がり消費全体に響いており、今後についても厳しいまま変わらない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・やや悪い月とかなり悪い月が交互に訪れている。これ以上の景気の上昇はなさそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・ 今月は高級飲食店の売上が良かったものの、定期的に来店していた高齢者の客足が遠のいたままであることから、こうした状況は一過性のものと見込まれる。また地方では景気の高揚感より、店の疲弊感をより感じる。
		一般レストラン（スタッフ）	・ 4月にビール、食材等が値上がりしたばかりなのに、7月から焼酎、各種調味料、食用油等が再度の値上げとなる。原油価格の高騰も続いていることから、収益をますます圧迫しており、先行きについては不安要素ばかりである。
		観光型ホテル（経営者）	・ 諸物価の高騰、台風や地震等の自然災害に対する不安など、観光に対するマイナス要素が多すぎる。
		旅行代理店（従業員）	・ 原油高が沈静化する動きも感じられず、洞爺湖サミットが終了したことで、すぐに好転するような要因が見当たらない。
		タクシー運転手	・ 流しでの営業は限界で、1時間走り回っても客が乗らないことは珍しくない。こうした状態が急に変わるとは考えづらく、今後についても変わらない。
		タクシー運転手	・ タクシーは景気に大きく左右される業種なので、景気が好転しないと良くならない。原油に加えて、小麦や卵まで値上がりする現状では、タクシーに客が乗らないため、今後についても変わらない。
		設計事務所（職員）	・ 原油高騰に基づく建設資材の値上がり、北海道開発局の官製談合の摘発、金融機関の貸し渋り等、北海道の景気回復のかぎを握る建設業を取り巻く環境は大変厳しく、当分、景気浮揚は望めない。それどころか、拓銀破たん時の暗雲の再来が現実のものとなりつつある。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ 原油高による諸物価の値上がりは今後も継続する。また洞爺湖サミットの開催を前に、二酸化炭素の削減、省エネ、エコへの意識付けが報道されており、消費者は「もったいない」との意識から、「無理・無駄」をしないようになっており、結果として消費が抑制されることになる。
		商店街（代表者）	・ 全体的に物価の上昇、税金などの負担増が見込まれることから、今後についてはやや悪くなる。
		百貨店（売場主任）	・ これから中元商戦が始まってくるが、良い情報が聞こえてこないことから、今後についてはやや悪くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・ 原油価格の高騰が電気料金の値上げにまで波及してきた。生活防衛色が更に強まり、ボーナスも消費ではなく貯蓄に回す家庭が増える。消費も本当に必要な物しか買わず、単価を下げるか買上点数を減らすなどの切り詰め策により、大幅に売上が減少することになる。
		スーパー（役員）	・ 物価の値上がりの影響で、買上点数が減少している。賃金の上昇がみられないため、今後についても買い控え、消費控えが懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・ 食料品とガソリンの更なる値上げにより、消費者の食料品に対する引き締めは一層厳しくなるため、今後については景気が悪化していく。
		家電量販店（地区統括部長）	・ 北京オリンピックの影響を受け、7～8月までは薄型テレビを中心とした需要が見込まれるが、それ以外の家電品については、消費低迷のあおりを受け、大幅に減少することが見込まれる。
		観光型ホテル（経営者）	・ 7月は洞爺湖サミットがあり、8月は北京オリンピックがある。また時期は分からないが、年内の総選挙が見込まれることから、観光客の入込が少なくなる要素が3つそろっているため、今後については入込数が少なくなり、やや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・ 需要の伸びがなかなか期待できない状況にあることから、今後についてはやや悪くなる。
		タクシー運転手	・ 最近、ガソリンや食料品など様々な商品の価格が上がってきていることから、衣食住以外の消費は抑えられる。当然、タクシーの利用は減ってくる。
		観光名所（役員）	・ 厳しい交通規制が予想される洞爺湖サミット終了後も、北京オリンピックの開催など、観光面ではマイナス材料しか見当たらないことから、引き続き楽観できない状況にある。
		観光名所（職員）	・ 洞爺湖サミット終了後に北海道観光が世界的に注目されるなど、今後については期待が持てる面もあるが、原油や物価の高騰、北京オリンピックの影響で観光客が減少する。また国内及び北海道の景気が上向くような材料もなく、当施設の利用人数増加は期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・客に節約ムードが広がっており、特に年金生活者にその傾向が強く出ている。価格の高い商品の動きが弱いことから、当分は商品の品ぞろえも価格の安い商品を増やす必要が出てきている。
		美容室（経営者）	・景気が良くなる材料は1つも無い。燃料や諸物価の更なる上昇などもあり、このままでは北海道がさびれて死んでしまうことになる。
		設計事務所（所長）	・公共料金、食料品、灯油、ガソリンなどが次々と値上げされるなか、客はますます低予算、高要望となり、仕事として成立しない傾向がみられることから、今後についてもやや悪くなる。
	悪くなる	百貨店（売場主任）	・今後もガソリンや灯油が更に高騰することが見込まれることから、家計が非常に圧迫されることになり、衣料品分野の消費にも影響が出てくる。
		百貨店（役員）	・ガソリンの更なる値上がりは、消費に相当の影響を及ぼすことになるため、今後については悪くなる。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格の高騰は、冬季に入って灯油の使用が始まればより家計に響くことになる。またガス料金や電気料金の値上げも控えていることから、今後の景気感は悪くなる。
		家電量販店（経営者）	・原油高、物価上昇、先行き不安など購買意欲をそく要因が多く、今後については悪くなる。
		スナック（経営者）	・不景気のなか、物価の値上がりなどから、お金を使えなくなってきており、全体的に客の来店が減っている。また高齢化や年金などの問題もあり、今後、客が増える可能性は非常に低い。
		住宅販売会社（経営者）	・市場が冷え切ったまま、原材料価格が高騰していることから、今後については厳しくなる。
		住宅販売会社（従業員）	・いまだに、住宅総合展示場などは閑散とした状態が続いている。住宅関連全体で、成約数が激減している状態であり、今後も悪化することになる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・本当に良いものを求める層の需要は底堅く、実のあるブランドはむしろ支持されることが期待される。
		建設業（経営者）	・例年と比べて、発注遅れや資材価格の高騰がみられるが、2～3か月後には、公共工事、民間工事共にある程度受注が積み上がり、工事施工の最盛期を迎えると同時に、人、物、金の動きも活発になる。
	変わらない	食料品製造業（役員）	・値上げ交渉による改善を期待しているが、今の状況とあまり変わらないことが見込まれる。
		金融業（企画担当）	・洞爺湖サミット開催効果で観光関連は堅調となる。しかし道内企業は、原材料価格の上昇に対し価格転嫁の遅れが目立っている。公共工事の発注も遅れ気味で建設関連は厳しさが続く。また消費者の生活防衛意識が強いことから、個人消費は低迷する。
	やや悪くなる	輸送業（支店長）	・一部の本州企業による買占め傾向はあるものの、道内企業はおしなべて燃料費の上昇を価格に転嫁できていない。また輸入及び移入の入荷数量の減少、建築、土木の受注の大幅な減少などもあり、今後については更に悪化する。
		通信業（営業担当）	・景気を下支えする材料が見当たらず、洞爺湖サミットによる特需も身の回りでは感じられないことから、今後の景気感はやや悪くなる。
	悪くなる	その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・原価高騰により企業業績が悪化することで、システム関連への投資が減ることが見込まれる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・値上げ前の駆け込み需要は多少あるものの、原材料の価格が安定するまで仕事量は抑えられるため、今後については悪くなる。
	雇用 関連	良くなる	-
やや良くなる		-	-
変わらない		人材派遣会社（社員）	・企業の業績は横ばいであり、売上を増加させる方法を模索している。営業マンの求人が多いのもその表れである。コールセンターの活用など、顧客獲得に向けての提案に対しては興味を示すが、経費対効果を検証するため、なかなか結論が出ない状況にある。各企業とも現状からの打開策が見えず、今後に対する悩みは深い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（編集者）	・肥料やこん包用段ボールなど、原材料の値上がりの影響はあるものの、日本有数の大規模農業を基盤とする地域柄であることから、農業を軸とした地域の雇用はかろうじて現状並みの水準で推移する。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・仕事がなかなか決まらない状況のなかで、紹介した仕事を断ったり、途中で辞める人が増えていることから、雇用状況の改善は見込めない。
	悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・原油高、インフレなどマイナス要因ばかりで、プラス材料が見当たらない。求人雑誌が売れ始め、ネット求人のアクセス数が増え、各求人広告に応募する求職者の数も増えてきており、不況突入の典型的パターンを呈している。

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	コンビニ（エリア担当）	・長期予報では今年の夏は暑くなるとのことであり、ドリンク類、アルコール類、アイスクリームなど、コンビニの主力商品の売上が伸びる。
		家電量販店（店長）	・ボーナス商戦、梅雨明け、オリンピックなどがあり、多少の期待はできる。ただし、最近の単価の動きからすれば、販売数量をかなり伸ばしていかなければ売上増には結び付かない。
		乗用車販売店（経営者）	・10～11月にフルモデルチェンジの予定があり、特に軽自動車の販売には大いに期待している。また、現在の売れ筋である2車種は好調を持続する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・前年の国体以降は大きなイベントも無く、4～6月は低迷した状態が続いているが、この先は夏祭りなどのイベントがあり、その勢いが秋につながれば現在よりは少し上向いてくる。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン控除の制度が変更されることに不安も持っている客が多く、今年中の入居を希望する客が非常に多い。
	変わらない	一般小売店〔カメラ〕（店長）	・ガソリン高騰、岩手・宮城地震の発生などで出掛けるのを控えている様子が見え始める。落ち着くまでは写真プリントの受注が大きく伸びることはない。
		百貨店（営業担当）	・主力の衣料品に回復の兆しが無いほか、高額品市場やギフト需要など百貨店が強い部門にも影響が出ており、厳しい情勢は続く。
		百貨店（経営者）	・世界連鎖的な原油高と原材料価格の上昇、日本の社会福祉政策に対する不信感により、消費そのものが縮小している。今後2、3か月の期間では、解決の糸口さえ見付からないと消費者は考えている。
		百貨店（売場担当）	・前年のセールでは、土曜日が始日となったため、大きな集客があり売上もほぼ計画通りであったが、本年の動向は全く読み切れず大きな不安を抱えている。セールになっても客の心理が変わるとは考えられず、価格設定を更に吟味する必要がある。
		スーパー（店長）	・4、5月と続けて3～4%前年実績を下回っている。売上確保のためにチラシ価格強化で集客を図ろうとしているが、利益を度外視にした価格でなければ売上に結び付かないため、収益への影響が大きくなっている。
		スーパー（店長）	・原油価格の先行きが不透明である。また、小麦などの原材料価格高騰が各方面に大きな影響を及ぼしており、消費の低迷は今後も継続する。
		スーパー（総務担当）	・7月以降は食料品、ガソリン、電気・ガス等の負担が更に大きくなるため、生活防衛を真剣に考えた消費行動がはっきり出てくる。買い控え、特売品の買いため、買い回りも当たり前に行われる。今後、低価格商品の開発・提案や量目の見直し等、客の生活支援対応を工夫していく。
		コンビニ（経営者）	・季節的要因もあり、売上は順調に推移するものとみているが、カップめんやソフトドリンクなどでは、国産メーカー品から自社開発商品への移行がみられるなど、気になる動きもある。タスポの導入に伴い現状はたばこの売上が全体を押し上げているものの、他の商品の売上は伸びておらず、財布のひもは固いと感じられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・今後も様々な商品で値上げの情報があり、状況は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポ効果は、あくまで一時的なものと考えている。
		コンビニ（エリア担当）	・2、3か月の短い期間では、状況はあまり変わらないとみられるが、長期的には諸物価の高騰による消費への影響が懸念される状況であることに間違いはない。
		衣料品専門店（経営者）	・原油や原材料の高騰により物価が上昇しエンゲル係数が高まり、それ以外にはお金が回らないことから、景気上昇には程遠い。
		衣料品専門店（店長）	・物価上昇に伴い消費者の生活防衛意識が強まり、たんす在庫に無いような、必要最小限の物しか買わない傾向が今後も続く。
		衣料品専門店（店長）	・原油高騰に伴い物価が上昇し、消費者は生活が不安定になる。また、クールビズにより、スーツ、ネクタイなどは需要が縮小する。
		乗用車販売店（従業員）	・ボーナス月にもかかわらず、商談件数、販売量共に増えていないため、今後の景気が良くなる可能性は低い。
		その他専門店〔化粧品〕（経営者）	・大型建設会社の倒産もあり、関連企業200社が影響を受けている。将来に対する不安は解消されておらず、消費の喚起には結び付かない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・景況悪化と報道で伝えられているものの、中元に向けた産直品の贈答品は信頼、品質、価格維持、並びに拡販努力により、中間時点の受注は好感触であり、前年並みの実績を目指していく。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・中元商戦、ビアガーデンなどの需要が盛況となる時期ではあるが、消費者の買い控えが以前より顕著であること、天候が不安定であることから、景気が大きく上昇する期待はできない。
		一般レストラン（スタッフ）	・現在の「やや悪い」状況に消費者も慣れてくれば、これ以上は悪くならない。
		観光型ホテル（経営者）	・この先3か月について、岩手・宮城地震に伴うキャンセルはまだ無いものの、新規予約受付の動向は全く見通しが立たない。その中では、女性向けの日帰りプランや婚礼の受付がやや伸びている。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・これからの夏祭りのシーズンに県外客の入込を期待したいところであるが、岩手・宮城地震や平泉の世界遺産登録延期など暗いニュースが相次ぎ、状況は悪化傾向である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・消費者の購入意欲がそこそこあると感じる反面、買いたいけれど買えないという事情を感じさせるような店頭経験も増えてきている。以前は大きくまとめ買いをしていた客も、一律に経済的な余力が低下してきているように見受けられる。
		百貨店（販促担当）	・原油価格の高騰、諸物価の上昇などで、消費トレンドは更に落ち込む。
		百貨店（経営者）	・ガソリンを始め、食料品など生活必需品の値上がりによる先行きの不安感があるとともに、岩手・宮城地震の災害等に伴う自粛ムードも懸念材料である。
		スーパー（経営者）	・今後も物価の上昇は続くともみられ、原油価格も下がる兆候が無い。その一方で、収入が増える見込みは無く、今後の消費はますます冷え込んでいく。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格の上昇に伴い、遠出する人や帰省する人が減少するおそれがあり、従来見込めるはずの需要が小さくなる可能性がある。
		スーパー（店長）	・ガソリンなどの価格上昇により景気が悪くなる。農業が盛んな地域であるが、これまでの天候からすれば米、野菜は豊作が見込まれるものの、燃料費の高騰で生産コストが上昇しているため、食料品や衣料品の販売にも悪影響を及ぼす。
		コンビニ（経営者）	・タスポの保有者が増え自動販売機でのたばこ購入に切り替われば、コンビニへの来客数は現在よりも減少する。
		コンビニ（店長）	・原油価格の上昇が続き、来月もガソリン価格の値上げがあるため、家計を直撃する。食料品も値上げが続いていることから、消費低迷の流れが収まる気配が無い。
		衣料品専門店（経営者）	・夏のボーナスの支給状況について、良い話はほとんど聞かれない。したがって、消費よりも貯蓄に回るものと予測している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店(店長)	・企業業績が下向いてきたことが、接客の様子からうかがえる。夏物衣料については順調に推移しても、秋冬物の立ち上げのころになれば引き締めは掛かってくる。
		住関連専門店(経営者)	・原油高が食料品を始めとして、あらゆる物の値段に影響しており、家具を販売する環境としては厳しさが続く。ただし、企画次第では需要を掘り起こすことも可能であると考えている。
		住関連専門店(経営者)	・地震によって家具は倒れる、という不安感を消費者が持つため、岩手・宮城地震の発生が、家具や仏壇の売行きに影響する。
		その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	・ガソリンなどの販売価格は7、8月と値上げが続くことが予想され、より一層の需要減退が想定される。資金力の乏しいところは廃業、倒産のおそれがある。また、燃料を多く消費する業界では、燃料ショックによる倒産増加が避けられない。総じて、冬場の需要期の前に、相当厳しい淘汰が進む。
		高級レストラン(支配人)	・原油高に伴い食材や包装材など仕入価格の値上げがあり、販売価格も値上げせざるを得ない状況になっているため、来客数に影響がある。
		一般レストラン(経営者)	・以前のように「その場が楽しければ良い」という雰囲気は無く、将来に対する不安が増大しているため、極力無駄な出費を控えるようにしている。物の値段も上がっており、このような控えめな傾向が強まる。
		一般レストラン(経営者)	・7月以降もガソリン価格が値上がりするとの情報もあり、また、食料品の価格上昇も続いていることから、個人消費が上向き環境ではない。
		一般レストラン(経営者)	・悪循環を打破する突破的な流れを作れない限り、まだ景気が悪くなっていく。食材が高くなるのも困るが、生産者や漁師の生活が安定せずに、漁や収穫ができなくて物が市場に流れなくなれば、飲食業には最大のダメージとなる。
		スナック(経営者)	・ここまであらゆる物の価格が上昇すれば客の消費意欲は停滞するため、景気は悪化する。
		その他飲食[弁当](スタッフ)	・惣菜などの食材についても原材料価格が毎月のように上がり、販売価格に転嫁しているものの売上は徐々に悪くなっている。2、3か月先も原材料価格の上昇は続くものとみていることから、購買意欲は更にダウンする。
		観光型旅館(経営者)	・岩手・宮城地震は東北全体の地震として全国にイメージ付けられたため、被害の無かった県であっても風評被害は避けられない。行政に多くの期待はしておらず、民間が自分自身でできることから前向きに、積極的に取り組んでいく。
		都市型ホテル(スタッフ)	・全国規模のイベントが集中するが、予約状況はさほど良くない。むしろ原材料の値上げによる収益率悪化が懸念される。
		旅行代理店(従業員)	・家計の収入が変わらずに物価が上昇していることで、景気悪化の要因となる。
		タクシー運転手	・客から「景気が悪くなった」という話は聞くが、良くなったという話は全く聞かれない。また、タクシー業界は乗客が少ないにもかかわらず稼働台数が多く、構造的に破壊されているため、景気が良くなることはない。
		遊園地(経営者)	・原油価格の動向に加え、岩手・宮城地震の影響もあり、景気が上向き期待はできない。
	悪くなる	商店街(代表者)	・生活必需品の値上げは久しぶりに体験することでもあり、その影響は深刻である。そのため、夏祭りや秋の行楽シーズンに向かうことを考慮しても、売上が1割程度落ち込むのは避けられない。その他に大型店の出店も予定されているため、影響はダブルで効いてくる。
		一般小売店[雑貨](企画担当)	・現在でも消費者の財布のひもは固いが、ボーナスの減少、年金問題、社会保障費の負担増、消費税の引上げなど、将来的な不安から消費意欲は極端に落ち込む。
		百貨店(広報担当)	・ガソリンや日用品などの値上げにより、消費環境が改善する兆しが無い。
		百貨店(経営者)	・原油高に伴う食料品、ガソリンなどの値上げの影響が大きく、衣料品などへの支出を控える傾向が強くなっていくなど、販売数量、販売単価共に低迷が続く。
		スーパー(経営者)	・ガソリンなど身の回りの品が値上がりしているため、客は買上点数を減らしている。生活防衛の一貫として、今後も同様の傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・商品価格の値上げはまだまだ続くため、引き続き家計を圧迫していく。
		スーパー（店長）	・食料品やガソリンの値上げがあり、節約志向はますます強まる。
		スーパー（店長）	・原材料価格の高騰の影響もあって、今後も買い控えの状況は続く。来客数の減少もみられており、この先も前年並みの売上を確保することは非常に難しい。
		スーパー（店長）	・ガソリン価格や食料品価格が高騰しているため消費が落ち込む。また、競合店の出店に伴う来客数の減少も予測される。
		コンビニ（経営者）	・ガソリンを始めとする諸物価の上昇により、家計のダメージが大きいと、まとめ買いなどは少なくなっていく。
		コンビニ（経営者）	・前月と同様に商品の値上げが毎週のようにあり、原油価格の動向にもよるが、この傾向は続くものとみられ、客の買い控えが続き景気は良くならない。
		衣料品専門店（経営者）	・これまでも様々な商品の値上げが報道されているが、食料品を始めとして秋ごろまで値上げは続くものとみられ、消費者の警戒感が高まり状況は更に悪化する。
		衣料品専門店（店長）	・このまま生活防衛感が強くなり、冬には灯油などの暖房費の負担が増えるという不安感から、消費は冷える。
		乗用車販売店（経営者）	・7月からガソリン価格が更に上昇するとの話もあり、個人、法人共に走行距離の短縮化から台替需要の伸び悩みが今後も続く。
		乗用車販売店（経営者）	・今後、更にガソリン価格が上がれば、自動車の新規取得数だけでなく保有台数自体の減少も懸念される。少ない市場を大勢で奪い合う苦しい環境が続く。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・このまま原油価格の高騰が続けば、更なる販売価格の値上げにつながり、著しい販売量の低下を招く事態が予想される。先行きは不透明であり、コスト削減のため厳しい判断を迫られる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・ガソリンなどの燃料油は7月も大幅な販売価格の上昇があり、このままでは客の買い控えが一層進むことになる。この業界だけではなく全体的に景気低迷の状況がみられるため、早く手を打たなければ大不況に陥るのではないかと懸念している。
		一般レストラン（経営者）	・当店の客でも、業績の良い業種は限られており、大半は悪い状況のようである。最大の原因は諸物価の高騰であるとみられる。市場に仕入れに行くと、これまでたくさん入荷していた魚が入らなくなったりして、魚の種類が少なくなっているという現象もみられる。
		観光型旅館（経営者）	・岩手・宮城地震による施設的な被害は無く、温泉街も正常に営業中だが、余震と風評被害により、宿泊業以外の土産や飲食、納入業者にも大きな影響が出始めている。他の震災地の例では、売上が回復するまで8か月から1年かかっているとの報告もあり、短期の資金繰りにも影響が出始めている。
		タクシー運転手	・当社でもアイドリング禁止などを実施して努力しているが、個人タクシーでは営業を止めている人もいる。この業界に限らず、先の見えない長いトンネルに入ったような感覚がある。
		観光名所（職員）	・ガソリン高騰の影響で外出を控えているのか、団体客ばかりでなく個人客についても減少が激しくなってきた。
競艇場（職員）	・燃料費の高騰などで、外出が控えられ。また、物価の上昇により消費が冷え込んでくる。		
その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・現状の打開策が今のところ見当たらない。中小事業者が取れる方策は人件費の圧縮や経費の切り詰めで我慢することくらいであるが、これが新たな購買減につながるという負の連鎖となり、そう簡単にはこの悪循環から抜けられない。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	通信業（営業担当）	・季節的なイベントも活用し、地域に根ざした強みを活かした展開ができれば、前年度レベルの実績は維持できそうな手ごたえを感じている。
	変わらない	電気機械器具製造業（企画担当）	・オリンピックや夏場の明るいイメージで、当面は持ちこたえられる。秋口以降での一段の景気の落ち込みを警戒したい。
		広告代理店（経営者）	・原油高、原材料高は3か月で見通しが立つものではなく、状況は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞販売店〔広告〕 (店主)	・営業先や集金先で話を聞いてもリストラや経費削減の話題が多く、「何か明るい話題は無いの」と逆に聞かれる始末である。大型スーパーでもチラシの入った日以外は閑散としているなど、消費が拡大しない厳しい状況が続き、景気の浮揚は見込めない。
	やや悪くなる	食料品製造業(経営者) 食料品製造業(総務担当)	・この先もガソリン代などの値上げが続くようであれば、景気は一層悪くなる。 ・素材メーカーから原材料の更なる値上げが発表されており、また、米国などで秋の穀物収穫量の減少も予想されているなど、相次ぐ原材料価格の上昇で収益が大きく圧迫される。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・原材料の高騰がボディーブローのように効いてきて利益を圧迫するため、9月ごろまでは厳しい状況が続く。下期に向けて新規事業の展開を模索している状況である。
		建設業(従業員)	・サブプライムローン問題の影響が、民間発注者の資金調達が困難となっており、計画を延期・縮小する案件が増加してきている。
		輸送業(経営者)	・荷主も原油高騰の影響を受けており、運送業の現状は理解しつつも、料金に反映するのは厳しい情勢である。
		輸送業(従業員)	・各企業の原油高騰によるダメージは計り知れない。代理店の努力でなんとかやってきたが、限界に近づいているような気がしている。
		広告代理店(経営者)	・岩手・宮城地震の影響により、今後予定されているディスプレイネーションキャンペーンに水を指された形になっている。
		公認会計士	・3か月前との比較では、経営状況にさほどの悪化はみられないが、売上等は低い水準であり、原価削減等に対応している会社が多い。この状況に原油価格高騰に伴う原材料費、燃料費等のアップが重なれば、苦戦する会社が出てくる。
		コピーサービス業(経営者)	・原油高騰の影響は、取扱商品の値上げという形に現れている。そのため、購入を控える動きも増え始めていることから、将来についても景気回復は困難である。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕(経営者)	・例年であれば気候も良くなり食欲も出てくる時期となるが、今年はあまりにも暗い話題が多く、そのような兆候がみられない。
	悪くなる	農林水産業(従業者)	・農業資材、燃料、肥料、農薬のすべてが値上がりしているのに対し、農産物価格の低迷は今後も続くと予想される。世界的に穀物価格が高騰しているにもかかわらず、国内の穀物、特に米の価格は相変わらず低迷している。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	・自動車部品については、北米市場の悪化が継続する。さらに、競争の激化もあって収益が圧迫される。
		建設業(企画担当)	・原油高騰に起因する各種原材料の値上がりで、収益が確実に圧迫されている。損益の数値は先々の決算で結果が出るが、今後、会社の深刻さが徐々に現実のものになってくる。
		金融業(広報担当)	・食料品やガソリンの値上がり、家計支出へ大きな影響を及ぼしてきている。今後、鉄鋼などが値上げされれば、最終消費財への影響は避けがたく、生活防衛のため消費を抑制することになる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・秋口にかけて駅前と郊外の大型店のオープンが控えており、景気に良い意味での連動性が生まれることを期待している。ただし、岩手・宮城地震の影響は気掛かりである。
		職業安定所(職員)	・6月20日より来年3月新規高卒者対象の求人受付が開始されたが、初日は前年度の倍近い求人の申込があった。特に製造業からの求人数が増えている。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・企業が採用の動きを凍結している。
		職業安定所(職員)	・有効求人数が9か月連続で前年同月比を下回っており、今後2、3か月先に急激に改善される要因が無い。
		職業安定所(職員)	・求人数の減少率が、ほぼ一定水準で推移している。
		職業安定所(職員)	・新規求人数の減少傾向は今後もしばらく続く。求人数は相変わらず減少傾向が続いており、有効求人倍率も徐々に低下してきている。
	やや悪くなる	職業安定所(職員)	・公共事業主体の建設会社では受注減に伴う解雇者が発生しており、また、今後の解雇を検討している会社もみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・9月に期限を迎える派遣契約において、中途採用など直接雇用へのシフトが増える気配がある。

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・売上も来客数も一気に上がった。本当に必要なものが品ぞろえされているのか、客が満足して買物しているのか、よくよく確認しながら更に上を目指したい。前年比ができる1年間はこの勢いを維持したい。	
	やや良くなる	コンビニ（店長）	・全体的に景気が上向き様子が見られないが、7月より当地域でもタスポカードが導入されるので、先行地区の状況からタスポカード未作成の客が相当数タバコを買いに来店する。	
		衣料品専門店（統括）	・夏祭りに向け、商品の問い合わせ、見積りがやや増えてきた。客が少し活発になってきた。	
		都市型ホテル（支配人）	・学校が夏休みに入って、団体等の動きが少し入ってきているので、1～2か月先は良くなる。	
	変わらない	一般小売店〔精肉〕（経営者）	百貨店（販売促進担当）	・ガソリンの値上げ、卵の値上げ、安い輸入食品の値上げがあり、当分景気は上向かない。
			スーパー（統括）	・現状でも外商顧客を対象とした高額品や中元、ギフト商品の受注が落ちており、今後とも、この消費マインドは上昇する気配は感じられない。おそらく百貨店の中の食品、化粧品以外の商品の販売量は上昇する気配は無い。
		コンビニ（店長）	・加工食品は一部のカテゴリーのセカンドブランドから低価格での展開の提案があり、いくつかのカテゴリーではシェアに変化が生じてきている。今後、更にマーケットの変化が予測されるが、消費者はますます冷静にユニット価格などシビアな買物をしていく。	
		衣料品専門店（店長）	・今回のようなタスポカードの導入や、ガソリンの高騰など、何かきっかけがあって一時的に景気変動することはあるが、必要なものしか買わないという状況は変わっていない。	
		家電量販店（営業担当）	・秋物立ち上がりの時期であり、例年より涼しい日が続けば、販売数が比較的良好な場合もある。ただ、毎年残暑が厳しいために、早めに秋物を購入する客が少なく、動きは厳しい。	
		乗用車販売店（販売担当）	・オリピック前でも映像関連商品の動きが鈍く心配である。	
		ゴルフ場（従業員）	・当社は前年同月比で見ているが、毎月上がったたり下がったりの繰り返しで本当に全然伸びない。マイナスが出ないように維持するのがやっとの状況である。	
		ゴルフ場（従業員）	・予約状況を見ても前年比と変わらず伸びが今一つ止まっている。単価も依然横ばいで同じ状況が続く。	
		その他サービス〔清掃〕（総務担当）	・来場予約数が去年と同じである。	
		住宅販売会社（経営者）	・多くの会社等でボーナスが支給され、夏休み期間に入るので、一時的に購入や旅行など消費が増加するが、すぐに元通りの生活に戻る。	
		住宅販売会社（経営者）	・銀行の貸し渋りが多少あるのではないかと。不動産を担保に掛け値がきつくなっており、かなり自己資金を用意しなければ物件が売れないという状況下にあると考えられる。	
		やや悪くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・値上がりムードのなかで、買いだめ、買い急ぎは見られない。財布のひもは固く、出費は控えたいが必要であれば仕方ない、との購買行動が見られる。
			一般小売店〔酒類〕（経営者）	・多くの会社等でボーナスが支給され、夏休み期間に入るので、一時的に購入や旅行など消費が増加するが、すぐに元通りの生活に戻る。
	スーパー（経営者）		・来客数、客単価共に毎月落ちているので、物価高の折、相当悪くなる。	
	スーパー（総務担当）		・競合店の進出により競争が激化する。	
	スーパー（販売促進担当）		・客は必需品しか買わない。衣料品関係等は本当に欲しいものしか買わない。先行きは必需品以外は悪い。	
乗用車販売店（営業担当）	・必需品ということで食品については比較的堅調に推移し始めたが、衣料品は気温と件もあり、非常に厳しい。夏のクリアランスセールが始まったが反応は鈍い。景気回復が不透明のなか、必要な物だけを買う傾向が進み、衣料品が買い控えられている傾向である。			
乗用車販売店（営業担当）	・資金繰りが良く高級乗用車を購入する客も一部いたが、大半は、まだ自動車にお金を掛けられない状態が続いている。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		に関連専門店(店長)	・ここ最近、食品の値上げ、7月からのガソリンの値上げ等周りに値上げの情報があまりにも多く、一般の消費者の財布のひもは固い。
		都市型ホテル(スタッフ)	・夏場にかけて公務員、大手企業関係の休みが多くなる。そうすると安価な料金設定をしてもなかなか入ってもらえない。特に、お盆は帰省によりビジネス客が極端に減ることが懸念される。
		旅行代理店(従業員)	・海外旅行に行く客がちゅうちょしている。ガソリン代の単価が下がらない限りは、客は海外旅行を控え続ける。
		旅行代理店(支店長)	・燃油サーチャージの高騰、物価の高騰が旅行の手控えにつながっている。3か月後は秋のシーズンになるが、バス会社の話では、ロングの仕事を請けると逆にマイナスになる状況にもある。料金も上げられないなかで、非常に厳しい一年になる。
		ゴルフ場(副支配人)	・2、3か月前には予約の引き合いがあった。ここに来て2、3か月先の予約の引き合いが少なくなっている。近日の引き合いについても単価の動きがき面に出ており、少しの値下げにも客が反応している。価格に敏感というのは痛切に感じられる。入場者数を確保しても売上が出ないというのが現状である。コストが燃料費の高騰により掛かっているため収益面では厳しい。
		美容室(経営者)	・当店は中年の客が多く、また、新規客もあまり増えていない現状であり、先細りの不安はある。客との会話は、政治絡みの話題、生活の大変さ、食品の価格上昇についてである。当店は価格を15年据置きしているため、そろそろ上げたいところだが、客の反発もあるし、難しい。
		美容室(経営者)	・生活物資等の値上がりの話が頻繁に出ており、来客数その他にも影響が出ている。
		住宅販売会社(経営者)	・契約率はさえない状況である。住宅ローンの金利の上昇に伴い、消費者の購買意欲も減退し、住宅ローンの借り入れにも慎重である。
		住宅販売会社(従業員)	・原価や営業経費の上昇分を販売価格に転嫁することは難しく、採算は更に悪化する。
	悪くなる	一般小売店[衣料](経営者)	・国内では、最近の地震の問題など、岩手や宮城ということではなくどの場所でも日本で起こりうるという意味で不安要素が多い。北京オリンピックが近づいており、確かに楽しいことであるが、そういう感じは伝わってこない。
		百貨店(総務担当)	・地域一番店の大型建設会社の倒産はかなりダメージがある。これに携わる従業員はかなりの数になる。観光名所の来客数の減少、中元や婦人服の売行きが悪化、老人医療保険の問題、ガソリンの高騰、諸物価の上昇、良くなる要因は何も無い。
		衣料品専門店(経営者)	・ガソリンの高騰、食料品の値上げ、天候の異変、この状況が続く限り良くなる材料が無い。
		衣料品専門店(経営者)	・隣接市で6、7月の2か月間に大型スーパー、アウトレット、複合SCの3施設がオープンし、総売場面積で6万数千平米が一気に増床になる。縮小しつつある消費のパイをこれでもかともぎ取って行く。
		家電量販店(店長)	・明るい材料が少ない。オリンピック需要がどこまで期待できるか、疑問が残る。
		乗用車販売店(販売担当)	・今後良くなる要素は全く無い状態である。新型の車種が出てても予約が入らない。中古車の予約も入らない。ある程度努力はしているが、2、3か月先まで良くなる要素、販売台数が伸びる要素が無い。
		一般レストラン(経営者)	・このまま、物価高が続けば値上げに踏み切らざるを得ないが、売上に相当影響する。
		スナック(経営者)	・ガソリン高、物価高である一方、給料は上がらない。当社は飲食業だが、だんなの小遣いが一番響く商売である。
		観光型ホテル(営業担当)	・燃料、食材原材料の高騰が収まらないが、値上げ分をそのまま料金に上乗せするわけにもいかない。車で遠出も控えようとする。
		都市型ホテル(経営者)	・物価の値上がりで、企業などが経費の見直しを行っており、出張自体の減少、日帰り出張の増加で、今后来客数の減少に歯止めが無くなるおそれが出て来ている。
		タクシー(経営者)	・デパートの客の利用回数が落ち込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（支配人）	・原油の高騰によるガソリン代値上げにより、遠距離の県外来場者が激減する。A重油等の値上がりも非常に多く、節約する限度にきている状態である。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・販売量の増加が望めない状態のなかで、原価が上昇し、利益が圧迫されている。来客数、売価共に弱含みである。
		設計事務所（所長）	・ガソリンを始め値上がりの物ばかりである。とても、家造りという環境ではない。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業 (経営者)	・建設機械の部品が7月納期のものから多少増加し始めた。自動車関連の部品は、9月ごろから徐々に増加する。
		その他製造業 [環境機器] (経営者)	・新開拓の環境機器は年度の予算なので7割は3月予算から動く。
	変わらない	化学工業（経営者）	・2、3か月で価格の改定が出来る見通しが立ってきた。そうすれば一息できる。
		金属製品製造業（経営者）	・原材料の価格、特に、鉄板類が7月から再び値上がりしている。ここまで上がると、経営努力だけではなかなか吸収は難しい。取引先に、工作、産業機械の価格転嫁を認めてもらった。自動車業界でも現在交渉中だが、ほぼ可能のようである。特に現在、スクラップの価格も上昇しているの、両方合わせれば何とか吸収できそうである。価格転嫁を認める企業が非常に多くなってきているが、これは大手の取引先企業の話である。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・7月は多少受注がアップする計画予定を受けているが、コストダウンのフォローはできそうもなく、前月からの厳しさが続く。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・受注は現在より増えるが、受注内容は悪い。今後、原材料の値上げは更に進み、収益がより悪くなるのではと懸念される。
		輸送業（営業担当）	・物量の確保は前年並みである。しかし、現状の燃料高による利益の減少を補うべく、輸送の工夫と燃料サーチャージなどの交渉を行っている状態である。
		その他サービス業 [情報サービス] (経営者)	・現在の引き合い、受注量から推測しても、急激な変化は見えてこない。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業 (営業担当)	・ガソリン、資材の高騰、紙代の値上げにより、印刷業にとってはかなり厳しい。
		一般機械器具製造業 (生産管理担当)	・秋口に回復の見込みだった中型、小型建設機械に関連する仕事も、回復時期は年末との話に変わってきている。2、3か月先に増産という話は、ほとんど聞かれない。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	・取引先各社とも注文がどんどん少なくなっている。
		新聞販売店 [広告] (総務担当)	・外回り営業の会社では、毎日担当区域まで車で飛び出していた営業を、今後は週3日に変更し、残りの日は内勤業務にすることである。密度の濃い営業に心掛けるとのことだが、ガソリン高による営業日数の縮小を決断したようだ。
	悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・石油価格上昇に歯止めが効かず、消費者の購買意欲は低下し、物が売れなくなる。スーパー主導の流通形態に限界が来ている。脱スーパーで適正原価の適正売価で、自社販売に今後の生きる道を模索している。
	出版・印刷・同関連産業 (経営者)	・官公庁からも民間企業からも、競争見積を掛けられたり、条件交渉されている。	
	輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・原油高騰により原材料、電気やガス、そのほか鉄鋼や刃物などもろもろの製造に関わる材料価格が上がっているが、販売価格に転嫁できないでいる。メーカーには価格転嫁を急いでお願いしているが、遅れており非常に難しい状況で、これからの正念場である。また、賞与のカット等で経費を節減している状態である。	
	その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	・夏は通常、宝石の販売は停滞する。8月末から秋口の需要を見込んだ新作の発表会が行われるが、現状売れていないため、発表用の商品の製作も滞っている。	
	建設業（総務担当）	・相変わらず県内建設業者の倒産、廃業が後を絶たない状況が続いている。	
	金融業（総務担当）	・更なるガソリンの値上げにより、それに伴う他の物品の値上げの要請も納入業者から来ている。	
	広告代理店（営業担当）	・企業活動をする分だけ赤字を招くという状況が、中小零細企業のモチベーションを、どんどん奪っている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（経営者）	・ガソリンの値上がり等により、多くの業種、企業があおりを受け、売上低下、収益悪化により、企業の募集、採用は慎重になっている。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・一段落した企業の採用活動は、内々定者の辞退等による動きがこれからの時期出てくる。また、それらの動きを待ってから動き出そうとする中小企業の採用活動も含め、夏前後が次のピークになる可能性がある。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・設計関連については、原油価格の高騰もあり、生産、加工自体が減ってきている。先行きも8月の盆前には落ち込む。電子や電気等の加工はいくぶん現状維持で持ちこたえる。
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・客に前年と同様に予算を取ってもらって、新しく受注ができるといった、明るい材料が見当たらない。	
	職業安定所（職員）	・事業縮小による解雇では、突然の解雇や倒産ではなく、先行き不透明感から、余力のあるうちの縮小や廃止を行っているケースが目立つ。	

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・7月のタスポカードの全国導入開始に伴い、たばこ販売量の大きな増加が期待できる上、向かいにある競合コンビニエンスストアが今月で閉店することから、非常に忙しくなる。
	やや良くなる	コンビニ（エリア担当）	・7月よりタスポカードの全国導入が開始される。先行地域での数値は大きく上昇しており、大いに期待できる。たばこを買いに来る客に、タバコ以外の商品を購入してもらうことで、更に大きなチャンスとなる。
		家電量販店（経営者）	・景気の先行き不安から、ボーナスの使い道は、旅行ではなく貯蓄や家庭内での余暇の充実に戻す傾向があると言われており、8月の北京オリンピックに合わせた大型テレビやレコーダーの消費が期待できる。また、エコ意識の高まりから、対応する白物家電商品の動きが活発になる。
		通信会社（営業担当）	・北京オリンピックの開催と地上デジタル放送への移行という2つのイベントがあることから、契約の増加が見込める。
		観光名所（職員）	・この4月から5、6月にかけて右肩上がりの来客数となっている。
		パチンコ店（経営者）	・洞爺湖サミット開催の関係で台の入れ替えが自粛されており、7月中旬までは入れ替えができないが、2、3か月先は台の入れ替えが頻繁になり、それに伴う来客数が見込める。
	変わらない	百貨店（広報担当）	・地下鉄新線の開通による来街者数増加の影響で、来客数は6か月ぶりに前年を上回り高伸している。食品フロアに来客数が倍増超と、連日のにぎわいを見せており、7月のセールに向けて集客向上が期待される。
		百貨店（店長）	・ガソリンの再値上げにより、消費者のみならず生産者側にも大きな影響が出てきている。原材料費の高騰による食料品の値上げが更に進み、より厳しさが増すことで、消費に対する抑制感が強くなり、生活防衛意識はより高くなる。
		百貨店（副店長）	・秋冬商品に目新しさが感じられない。また先行きの不透明感が払拭されない限り、今のような状況が続く。
		スーパー（店長）	・ガソリンを始め食料品価格の高騰がめじろ押しのなか、販売数量の落ち込みが若干目立ってきている。
スーパー（店長）		・メーカーの値上げ攻勢等により、なかなか販売に結び付かない。特売を行っても客は特売品だけを買って、それ以上多く買うということはなく、非常に厳しい。現状客に見せることのできる努力はすべて実施しているため、状況は変わらない。	
スーパー（店長）	・大部分の商品の値上げが一通り終わったが、医療費、教育費、光熱費等生活関連費の上昇により、食品の買い控えの傾向はまだ続く。		
衣料品専門店（経営者）	・衣料品は、卸が値上げをしてきても、食料品のように売価に転嫁することができないので厳しい状況が続く。		
乗用車販売店（販売担当）	・今後もガソリンや諸物価の値上がりが続くと予想されるが、車の販売においては、古くて燃費の悪い車両からの乗換需要が出てきているので、大幅な落ち込みも少なく今後も変わらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（支配人）	・乗客数は戻りつつあるが、特に個人客の客単価が若干下がりが気味になっていることが懸念される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・2、3か月先の集客状況は前年同時期と比較して、宴会は法人宴会、婚礼共に微増である。レストランと宿泊の予約はこれから入るので油断はできないが、ホテル全体としては変わらないと見込んでいる。
		タクシー（団体役員）	・原油価格や諸物価は今後も上昇傾向が続き、交通費などの経費削減が更に進む。
		通信会社（営業担当）	・北京オリンピックが終わるまではテレビの買い換え需要を中心に何とか現状維持していく。
		その他サービス〔結婚式場〕（従業員）	・夏場の宴会予約が急にバタバタと入ってきたが、それでも前年よりは少なく、8月は更に厳しい状況になる。レストランの景気は多少良くなったが、宴会、婚礼の予約が増える兆しがない。
	やや悪くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・諸物価の高騰により買い控えが続き、雨の日は来客数が全くない日もあり、先行き不透明である。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・様々な物品が値上がりしているため、生活に直接関係ないし好品やインテリア用品は売れない。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・各仕入先より原材料の高騰による値上げの通達が届いており、販売価格に反映せざるをえない。個人の消費がどうしても落ち込んでいる現状では、この値上げが年末に掛けた需要に影響してくる。
		百貨店（営業担当）	・今まで安定していた婦人服、服飾雑貨等の婦人関連商品の動きが悪い。特に買上点数が少なく、買い物を必要最低限にとどめている様子が見られ、これは株価低迷、原油を始めた資源価格の高騰やインフレ懸念に起因しているとみている。来月のバーゲン商品の動きが今後の景気を判断する材料となるので注視する。
		百貨店（営業担当）	・イベントなどにより瞬間的な来客数増は見込まれるものの、購買動機にまではつながらない。6月は浮上のかぎを握る月と見込んだが、売上に大きな変化はみられなかった。中元ギフトの動きも厳しく、今後しばらくは消費に対する厳しい状況に変化はない。
		百貨店（販売促進担当）	・地下鉄新線開通の影響もあり、地域的に不利な状態は続く。省庁のボーナス支給以降の中元商戦に期待するも、スタートダッシュでは出遅れた感が否めない。
		百貨店（販売促進担当）	・小麦、石油等の値上げ、株安等の経済状況のみならず、今後も地震や台風の影響が懸念されるため、好況とはいえない状況が続く。
		スーパー（経営者）	・今後の見通しとして良い材料が見当たらない。値上げは更に加速していく感があり、収入が増えない状況で節約志向になっていく。現在はそれほどでもないが2、3か月先は悪くなっていく。
		スーパー（統括）	・客当たりの買上単価が上がらない。商品の単価も価格を打ち出しているせいか、単価アップにつながらない状況で厳しい商売である。
		コンビニ（経営者）	・同類の商品を扱っている一般店の閉店が目立ち始めている。そういった店の客を引き入れられればプラス、だめならマイナスというような形で、景気自体としては悪い方へ向かっている。
		コンビニ（経営者）	・原油の値上げが経済全体に影響を及ぼしている。周辺の商店街もシャッターを下ろしている店舗が多く、しばらく景気回復は見込めない。
		衣料品専門店（経営者）	・今夏の天気、気温が読みにくいというえ、消費者の動向も予想しにくく、セールや初秋物の動きが心配される。メーカー側も安い商材が多く、客単価の低下も予想される。
		家電量販店（店長）	・物価が高騰している。ただし、省エネがキーワードとなり、省エネ商品の動きは好調である。
		家電量販店（営業統括）	・生活必需品のコスト増加が消費全体を押し下げる。燃料費や光熱費が上がれば食材費用が高騰すれば、ぜいたく品の消費が抑えられる。住宅の販売も低迷しているため、新たな消費ニーズが見つからない状況である。オリンピック需要は限定的であるとみており、オリンピック終了後の消費はますます厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	・暫定税率やガソリンの高騰等、自動車業界にとって明るい情報は無い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（渉外担当）	・原油価格の高騰、消費財の値上げなど、先行きが不透明な値上げが続いており、特に高額商品購入に影響が出てくる懸念がある。今後2～3か月は前年比微減の見込みであり、厳しい状況である。
		一般レストラン（経営者）	・物価高騰によりメニューの価格を改定した結果、客の出足が良くない。
		都市型ホテル（経営者）	・今後の婚礼の獲得状況が思わしくなく、3か月後も同じような形で売上の減少傾向がみられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・景気の停滞感が影響し、大掛かりな婚礼が減少している。小規模での会食メインの婚礼増加のため、売上が伸びない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ブライダル予約の状況が昨年に比べて非常に弱く、なかなか伸びてこない。
		旅行代理店（従業員）	・花火大会チケットの申込状況が前年と比べて悪い。
		旅行代理店（従業員）	・原油高の影響によりバスや飛行機のガソリンの値段が上がるため、景気回復は見込めない。
		タクシー運転手	・町が非常に閑散としており、これから良くなる要素が見当たらない。
		タクシー運転手	・値上げ問題で節約を考え、無駄を排除しようとする、タクシー利用客は圧倒的に減ってしまう。
		通信会社（総務担当）	・ガソリン価格が高騰し、電気料金も値上げされる予定であることから、ぜいたくを抑制し消費を控える者が多くなり、加入者獲得が一段と難しくなる。
		ゴルフ練習場（従業員）	・ガソリン価格や物価の上昇が続き、余暇に対するお金の利用が減っていく。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・ゲームは、面白くないものは見向きもされないが、面白いものはひっぱりだこになる傾向がある。ここ数年は物価や景気の変動にほとんど影響を受けなかったが、今回のガソリン高、物価高、資源高等は、客にかなりの心理的な影響を与えているようで、購買本数の減少傾向が若干ながら見受けられる。
		その他サービス[語学学校] (総務担当)	・一般の入会者の動きが鈍く、見学者数は前年比約30%減となっている。
		住宅販売会社（従業員）	・諸物価の値上がりによりユーザーの購買動機にブレーキが掛かっているなか、建材価格の値上がりが更に続けばますます状況は厳しくなる。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場への来客数が減少している。
	悪くなる	一般小売店[家具] (経営者)	・生活物資の価格が上がり生活防衛の意識が高まるなかでは、我々の販売する耐久消費財はますます悪くなる。
		一般小売店[食料雑貨] (経営者)	・物価上昇による買い控えが目立ち、すべてにおいて節約傾向がみられる。
		百貨店(売場主任)	・7月からの再度の価格高騰の影響により、今以上に消費は低迷する。
		コンビニ(経営者)	・ここ数か月、商品の高騰等によりますます売上が悪くなっている。それ以外にも、景気が良くなりそうな材料が見当たらない。
		コンビニ(経営者)	・価格上昇に対する守りに転じたのか、客がスーパーやディスカウントストアに流れ、コンビニに足を向けてもらえない。
		コンビニ(経営者)	・店前の道路の交通量が最近少なくなっている。車での来客が多いので、売上に響く。
		衣料品専門店(次長)	・ガソリン価格の高騰のため、客が郊外に買物に出る頻度が少なくなっている。来客数と買上単価が5%ほどダウンしており、この傾向は続く。
		乗用車販売店(販売担当)	・現状でも車の購入は難しいことに加え、鋼材の値上がりによりトラック関係も値段が上がることになっている。原油価格の高騰にもかかわらず輸送運賃は据置きという生活のなかで、新車需要は前年からみると約6割まで落ち込んでいる。今後については食料品の価格も上がっていくなかでますます景気は悪くなる。
		その他専門店[服飾雑貨] (統括)	・来客数に関しては前年比で特に減少は見られないが、財布のひもは固く、客単価が減少傾向にある。
		一般レストラン(店長)	・業者からの原油高、食料品等の相次ぐ値上げが収益をかなり圧迫してきているため、当店も値上げをする必要が出てきている。値上げにより、当然来客数、販売量が減ってますます悪い状況になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・燃油問題、若年層の海外旅行離れや全体的な景気不透明感によるマーケットの縮小が深刻である。
		タクシー運転手	・今後、官庁職員の深夜帰宅が自粛されると考えられ、影響は大きい。しばらくの間、タクシーの景気は悪いまま推移する。
		通信会社（経営者）	・次の案件情報が無い状態が続いている。
		設計事務所（経営者）	・景気は非常に悪くなる。中国では四川大地震、日本では岩手・宮城地震が起こり、耐震設計の仕事は来ているが、当社は構造事務所ではないので、外注しなければならない。重油等物価も上がり、新しいものが見えず、先が見えない。客も何をして良いのかわからない状態である。
		住宅販売会社（経営者）	・バブル崩壊後景気回復を引っ張ってきた不動産市場が急激に冷え込んでしまっている。金融機関の建設不動産業者への融資も非常に厳しくなり、不況に落ち込んでいる状態で、ますます悪化する。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・新たに受注した品が夏から秋にかけて立ち上がってくるため、忙しくなって、当然売上も上がってくる。
		その他製造業〔ゲーム〕（経営者）	・ハイビジョン録画媒体の統一及び北京オリンピック需要、更に2011年の地上デジタル放送への統一化により家電特需に拍車がかかることで、ハイビジョン再生が可能なゲーム機に若干の追い風となる。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・平成20年度第3四半期のスタートに合わせた相談や提案依頼が増えてきており、当面、光回線によるサービス需要が継続的に発生する。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・ガソリンの値上げや物価の上昇により、買い控えが目立つ。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・現在、原材料の値上がりを転嫁できない部分は外注費削減でカバーしているが、薄利を圧迫される状況に変わりはない。しかし、長期にわたる原油高で、取引先にも単価の値上げは仕方がないという雰囲気も若干あり、値上げ交渉の余地も出てきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今は流通業界も空調業界も最悪の状態である。通常の商品が売れなくなったが、新製品や新規取引先の確保で何とか半年並みの売上水準を保っている。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・商品内容において非常に努力しているもので、やや好調とも取れるような流れになってはいるものの、それが急に大幅に上がったたり下がったりするということはなく、今の努力の中で保つことができている結果である。
		建設業（経理担当）	・建築確認の許可は以前より多少早く下りるようになったが、相変わらず工事案件は少ない。競争の未受注でなくても、原材料の値上げがまだまだ止まらないので、利益は生まれない工事ばかりである。この状態はまだまだ続きそうである。
	やや悪くなる	化学工業（従業員）	・一部の原料が7月より値上がりするほか、それ以降も値上げの通知があり、製品の動きも悪く、良くなる兆しはない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新企画もなかなか決まらず、原油価格の高騰による原材料値上げ等もあり、良い材料は見当たらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・すべての製材部品の値上がりが確定しており、流通運搬の価格も上昇しそうな状況にあるため、需要が大きく落ちることを心配している。
		建設業（営業担当）	・消費税の上昇が示唆され、建設物資が値上がりしているため、事業計画を進めるか客が戸惑っている。
		輸送業（財務・経理担当）	・改善に向けた具体策がない。
	金融業（審査担当）	・原油価格の高騰によりマグロ漁船等が休業せざるを得ず、これに伴い魚価の市場価格が高騰している。しかしながら消費者に対する販売価格は横ばいであり、不況感は一層高まっている。	
	金融業（支店長）	・小売業に関しては消費がかなり落ちてきており、売上が減少している。建設業に関しては、建築確認許可の厳格化の関係もあるが、住宅が売れていないのが現状である。一般の客に関してはガソリン価格高騰の影響による諸物価の値上げがあり、資金が全然動いていない。今後もこれらの問題が解決しない限り難しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	不動産業（総務担当）	・ビル賃貸部門はテナントの状況から好調さを維持できると見込んでいるが、住宅分譲部門はいよいよ建築資材の値上がりの影響が出始め、採算を取るには販売価格の値上げが必要で、売行きに悪影響が出てくる。
		司法書士	・燃料の値上げが運送事業の不振や諸物価の値上げにつながっており、数か月では景気は回復しない。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・燃料費や原材料費等の値上げが決定しており、ますます利益が圧迫される傾向にある。
		食料品製造業（経営者）	・ガソリン、光熱費、ポリ袋等の仕入れの経費が増加する。
		繊維工業（従業員）	・原材料や原油の価格高騰により、製造メーカーは利益が出ない生産活動を余儀なくされている。さらに、これらの状況に拍車をかけて消費者は衣料の買い控えに動いているため、今後、繊維企業の中でも特にしわ寄せを受けやすい中小企業はますます経営不振が増幅される。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・材料の度重なる値上げにより、見積を取っても見積期間が短い上、決まったときには値上がりしている状態なので非常に厳しい。値上げにより再見積をすると仕事を断られるなど、本当に先行きが不安である。
		建設業（経営者）	・原油、材料の高騰が響き、客は様子見の状態である。地元では大手不動産会社が整理するとの話も聞かれる。
		輸送業（営業統括）	・消費が落ち込んで輸送するものが少なくなるなか、燃料価格が更に上がっているため、経営的にはかなり厳しい状態が続く。
		輸送業（総務担当）	・荷主の出荷量が伸びずに計画を下回っている状態で売上増が見込めない。更に、燃料の高騰も毎月続いているにもかかわらず燃料アップ分を運賃に転嫁できない。
広告代理店（従業員）	・メーカーからポリエチレン商品の材料値上げ依頼がきているが、商品価格への転嫁が難しい環境にあるため、収益が大幅に悪化しそうだ。		
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	学校〔専門学校〕（教務担当）	・コンピュータの専門学校だが、ソフト開発系の求人が相変わらず多い。バブル時代を思わせるほど、企業の採用担当の必死さがうかがえる。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・早い企業では来年の採用の準備に入っているが、大手が中心で中堅、中小は様子見である。昨年のような活気は見受けられない。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・今月は求人数の減少と共に正社員の求人が大幅に減少し、アルバイト、パートなどの募集が多少目立った程度である。秋に大規模ショッピングセンターがオープンする地域では関連の求人が見込まれるが、その他での落ち込みが予想されるため、全体の求人数に大きな変動はない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・大手派遣会社撤退のニュースや原油高、物価高の影響は大きく、求人の動きを見ると、現段階で人手不足から仕事不足に転換してしまった地域も多い。東京都内ではまだまだ人手不足感があるが、最近、都内の求人募集に対して県内からの応募が非常に多くなっている傾向が顕著で、これは県内における仕事不足を象徴している。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・過年度求人実績企業の今年度採用計画状況に大きな変化はない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・スタッフを整理、縮小する動きが多く、当社及びその周辺の景気状況はやや悪くなる方向に向かう。
		職業安定所（所長）	・ガソリン価格の高騰や原材料の値上がりで企業収益を圧迫する上、消費の低迷もあることから、人件費抑制のため求人を手控える傾向がある。
		職業安定所（職員）	・原油高の影響により企業の求人意欲は低下している。一方、医療、福祉業は恒常的に人手不足が続いており、業種間格差が広がっている。
		職業安定所（職員）	・原油価格の高騰、公共事業の減少及び個人消費の低迷のため、主要産業の求人の減少が今後も続く。
民間職業紹介機関（経営者）		・採用は費用の固定化につながることから、先行き不透明ななか、採用休止状態の企業が増えている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	求人情報誌製作会社 (営業担当)	・景況感からか、新規採用を控え、既存従業員での内部調整を進める企業が増えてきており、外部採用に要するコストの削減を図る動きがみられる。

5. 東海 (地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	コンビニ(経営者)	・近隣のスーパーの閉店とタスポ導入の影響により、販売価格と品揃えがうまくいけば、売上は前年同月比で10~20%は伸びる。
		テーマパーク(職員)	・ガソリン価格の高騰は続くが、東海北陸自動車道の全通によるプラスの影響が出てくる。
	変わらない	百貨店(売場主任)	・客の購買意欲は相変わらず低いため、買い控えは今後も続く。
		百貨店(企画担当)	・商品価格は、一部のメーカー以外は今後も現状維持または値上げの方向にあり、当面は厳しい状況が続いていく。
		百貨店(経理担当)	・ヤング婦人洋品は好調であるが、紳士洋品等是不調であり、今後の景気の方向性を把握しきれない。
		スーパー(店員)	・諸物価の高騰とそれに伴う客の慎重な買物姿勢は、今後も続く。
		コンビニ(店長)	・夜の来客数や店の周囲のタクシー数は減少している。タスポ導入による来客数、販売量の増加は一時的であり、長続きしない。
		衣料品専門店(販売企画担当)	・値上げに伴う需要の減少は、今後は解消されていく。
		乗用車販売店(経営者)	・ガソリン価格の高騰は今後も続くため、良くならない。
		乗用車販売店(従業員)	・ガソリンを始め諸物価の高騰は今後も続くが、自動車関連は節約対象の上位にある。そのため、台替えはもちろん点検、用品の売上の減少も続く。
		乗用車販売店(従業員)	・原油高に伴い、新車の購入に慎重になる客が増える。また、普通車から軽自動車に台替えするケースも増加する。
		都市型ホテル(従業員)	・予約件数は、例年並みである。
		旅行代理店(従業員)	・今後3か月間は、取扱量は増加していく。しかし、利益は期待できないため、人件費を抑える。
		ゴルフ場(企画担当)	・予約状況は、例年と変わらない。
		住宅販売会社(従業員)	・今後は、人気のない地域や付加価値に乏しい分譲マンションの値下げ競争が始まる。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・原材料、包装資材の高騰に、今後も歯止めが掛からない。客も、生活必需品の値上げにより、当店の商品の購入までお金が回らない。しばらくこの状況が続く。
		一般小売店[酒類](経営者)	・諸物価の高騰は今後も続くため、客の財布のひもはますます固くなっていく。
		一般小売店[酒類](経営者)	・生活用品が値上がりする一方で、収入は増加しておらず、客は今後も出費を極力抑える。
		一般小売店[書店](経営者)	・ガソリン価格は毎月値上がりするため、自動車での来客数が減少していく。
百貨店(企画担当)		・セール商品の売上が好調な分、通常価格の商品の売上は減少する。また、ファッショントレンドの変化によって、販売価格帯が低下している。加えて、販売量も減少しており、今後売上が増える要素は見当たらない。	
百貨店(販売担当)		・秋のトレンド商品が見当たらず、今後購買意欲が改善する要素は何もない。	
百貨店(販売担当)		・食料品やガソリンの価格高騰が続き、生活が成り立たなくなっている状況では、ファッションなど生活を豊かにする商品の購入はますます減少する。	
スーパー(店長)		・食料品に関する国内外の不正問題が続き、消費者の不信感が高まっている。加えて、原油高に伴う水産物の高騰により、消費は一層低迷していく。	
スーパー(店長)		・ガソリンを始め諸物価の高騰により、財布のひもは固くなっていく。	
スーパー(店長)		・ガソリンや穀物の価格高騰は今後も続くため、商品価格は高止まりする。消費者の慎重姿勢は、今後も続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（営業担当）	・ガソリン価格の高騰や商品値上げは今後も続くため、消費者の慎重姿勢は今後も続く。
		スーパー（仕入担当）	・ガソリンを始め、小麦や大豆などの食料品、日用雑貨の価格上昇は今後も続き、財布のひもはますます固くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・タスボ導入による来客数の増加は一時的である。原材料価格の高騰に伴う商品値上げやガソリン価格の高騰により、消費の低迷は避けられない。
		コンビニ（商品開発担当）	・食料品やガソリンの価格は今後も上昇するため、消費は回復しない。
		家電量販店（店員）	・パソコンの売上は月を追うごとに減少しており、今後も減少する。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格の上昇は続くため、自動車販売にとっては逆風が強くなる。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・売上が落ち込むなか、仕入価格の高騰は今後も続く。販売価格への転嫁は難しいため、今後も悪い状態が続く。
		観光型ホテル（経営者）	・原油高や生活必需品の値上がりにより、レジャー関係への支出は節約される。
		都市型ホテル（営業担当）	・ガソリン、食料品などの価格上昇に伴い、購買意欲は低下する。
		ゴルフ場（経営者）	・客単価が低下傾向にあるなか、3か月先までの予約件数に伸びがない。
		美容室（経営者）	・諸物価が上昇する一方なので、外出を控えるなどの影響が一段と強まる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・コスト高が続くため、収益は圧迫される。
		住宅販売会社（企画担当）	・ガソリンや高熱費、原材料の価格が上昇しているなか、メーカーからは値上げの要求がある。今後は価格が不安定となり、販売環境は悪化する。
		悪くなる	コンビニ（エリア担当）
都市型ホテル（経営者）	・金融の引き締めによる設備投資の減少や、諸物価高騰に伴う消費者の節約により、今後は悪くなっていく。		
旅行代理店（経営者）	・原油高などの影響で、中部の国際線の休止、減便が始まっている。地方発の旅行はますます減少していく。		
住宅販売会社（経営者）	・ガソリンを始め諸物価の上昇が毎日の生活を圧迫するため、住宅どころではなくなる。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	広告代理店（制作担当）	・紙代等が値上がりしているため、広告部数は制約される。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・原材料高や重油高による製造原価の高騰分を、一部の販売価格へ転嫁するため、販売量は減少する。
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・原油高により、諸物価の上昇は今後も続く。そのため、消費の低迷が続く影響で、段ボール使用量の減少は今後も続く。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・原材料の値上げが発表されており、販売量は5%ほど減少する。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・外注先から、値上げを通知されている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・操業度は維持しても、原材料、部品等の価格高騰が続くため、上期の業績は厳しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原材料や副資材の値上げ依頼が続いている。今後は、販売価格への転嫁により売上は減少する。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・8、9月の受注予定数は、前年と比べてやや減少している。原材料の値上げの話もある。
		輸送用機械器具製造業（統括）	・受注量が少しづつ減少しているので、悪くなっていく。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・取引先では、景気悪化を見越して経費削減を急速に進めている。今後はその影響が出てくる。
		輸送業（従業員）	・燃料価格の高騰と、長距離フェリー料金の度重なる値上げにより、経営が難しくなっている。今後は、長距離輸送が必要な製品の価格にも影響していく。
	輸送業（エリア担当）	・燃料、原材料の価格上昇と米国景気の悪化により、航空貨物量は減少する。	
輸送業（エリア担当）	・原油価格の高騰に伴い、燃料のみならず輸送にかかわる原材料全てに値上げ要請がある。今後は、この影響が出てくる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（エリア担当）	・ガソリン価格の高騰などにより、今後は価格転嫁の動きが増える。
		広告代理店・新聞販売店〔広告〕	・オリンピック前にもかかわらず、DVD、液晶テレビ等の広告が減少している。今後は自動車も含めて、これらの販売減が見込まれる。
	悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・食器、タイル業界では、操業を停止するメーカーが増えている。今後も一段と厳しくなる。
		鉄鋼業（経営者）	・下期に向けて、大口の建築物件がない。自動車などの国内工場も設備投資の予定も、先送りされている。
		輸送業（経営者）	・製造原価の高騰により、取引先からの値下げ要求が強まる。また、原油価格の高騰により、収益に影響が出るため、業務の拡大は困難である。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	職業安定所（管理担当）	・中小企業では業況の先行きに不透明感があり、求人意欲は引き続き低下する。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・プロジェクトの立ち上げが減少しているため、IT関連では今後、人が余っていく。
		人材派遣会社（経営企画）	・原材料価格の上昇により、企業の研究開発費の抑制が広がり、技術者派遣への需要は減少していく。
		人材派遣会社（社員）	・派遣への求人数は減少しており、今後も人件費抑制の流れが強くなる。
		民間職業紹介機関（職員）	・様子見の企業が多く、追加及び新規の求人数の減少は続く。
	悪くなる	求人情報誌製作会社（編集担当）	・新卒の採用予定数は大きく変わらないが、採用予算は減少となる。中途採用数は減少し、採用予算も減少となる。
新聞社〔求人広告〕（営業担当）		・製造業の求人数の回復は、当面ない。	
職業安定所（職員）		・企業整理や一部休業の相談件数が増加しているため、今後雇用環境は悪化する。	

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-	
		通信会社（役員）	・7月開始の「ダビング10」、8月開催の北京オリンピックに加え、長く足踏み状態にあったケーブルテレビ区域外再送信問題にも解決に向けた動きが加速しており、契約数増加へ明るい材料となる。	
			通信会社（営業担当）	・隣接のスーパーが改装オープンしたため、集客増により携帯電話の販売数が増加する。
	変わらない	一般小売店〔精肉〕（店長）	・最近の牛肉偽装事件の影響で客は疑心暗鬼になっており、商売が非常にやりにくい。	
		コンビニ（店長）	・タスポカード導入に伴ったこの売上増により、全体の売上も増加するが、利益的には横ばいで推移する。	
		家電量販店（経営者）	・新規需要を見込める商品が見当たらず、買い増しや買換えだけでは売上の増加は期待できない。	
		乗用車販売店（経営者）	・ボーナスの支給時期に入ったが、販売実績は良くない。あまり期待できない。	
		乗用車販売店（総務担当）	・現在は新型ミニバンが売れており、収益にも貢献しているが、この人気落ち着く夏場以降はやや厳しい。その他の車種の売行きは今ひとつ盛り上がりせず、このまま推移する。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・7月5日の東海北陸自動車道の開通による観光需要の増加に期待しているが、ガソリン価格の高騰により不透明感がある。また、レストラン利用客の低迷が続いており、出口が見えない。宴会も近隣にオープンしたホテルの影響等により低迷している。	
		住宅販売会社（従業員）	・商談件数はわずかながら増加傾向にあるが、契約にはなかなか結び付かない。	
	住宅販売会社（従業員）	・春先からの住宅展で収集した見込み客の絶対数が前年に比べ減少しているなかで、特に明るい要素は見当たらない。		
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・家計支出を管理している主婦の買物では、商品単価に対する意識が以前より厳しくなっている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・6月末から夏のバーゲンが始まった。客からは「これ以上値段が下がらないのか」「もう少したてば安くなるか」という声が多い。底値の状態で、しかも必要な物を1点だけ買いたいという客の購買態度からみて、客単価は低下し、売上は伸びないという厳しい状態になる。
		百貨店（売場担当）	・従来の来客数は前年の90%台で推移していたが、6月に入り極端に悪化しており、この傾向が続く。
		スーパー（店長）	・客の話題は「値上げ」ばかりである。今後、小麦、食用油の値上げが予想されており、客はぜいたくな物は買わず、必要な物だけを買うという態度を更に強くする。
		スーパー（店長）	・値上げラッシュで消費者の買い控えが多く見られ、し好品が全く売れない。また、買上点数も落ちるばかりで、客単価は上がらない。このような状態が更に続く。
		スーパー（営業担当）	・ガソリン高騰による家計費の圧迫から、食品の買い控えが広がり、買上点数、客単価がダウンする。
		コンビニ（経営者）	・相次ぐ値上げが予定されているため、客のコンビニ離れが進むおそれがある。また、タスポカード導入による店頭売上増加の好影響も落ち着いてくる。どこを見ても浮上の兆しは全くない。
		衣料品専門店（経営者）	・バーゲン時期に入ったが、客単価が伸び悩んでおり、今後の売上は厳しい。また、ガソリンや食品の相次ぐ値上げの影響が女性客を直撃し、婦人衣料の買い控えを招く。
		家電量販店（店長）	・オリンピック特需が一段落し、需要拡大の起爆材は当分見当たらない。
		乗用車販売店（経理担当）	・原油価格が高騰するなか、メディア等では車の使用を敬遠するような風潮や論調が多く見られ、この影響が販売に響く。
		乗用車販売店（経理担当）	・販売台数はガソリン価格の値上げや車両価格の上昇により減少する。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・ガソリン価格高騰の影響で客の来店頻度が減少すれば、衝動買いのチャンスが減り、売上は鈍化する。
		一般レストラン（スタッフ）	・消費者もガソリンや食品の値上げに慣れてきた感はあるが、無駄な物は買わない。外食も回数や支払額を減らすなど堅実になっている。8月の北京オリンピックは時差が1時間のため、長野オリンピックのように人気競技の放映時間には極端に来客数が減る。
		スナック（経営者）	・ガソリン、食品などの相次ぐ値上げが予想されるなか、客からは「原材料の値上げで営業もままならない」などの声が聞かれ、景気の悪化傾向は続く。
		観光型旅館（経営者）	・第2名神の開通で関西の客は伊勢・志摩の方向に動き、東海北陸自動車道の開通により中部より東の客は能登や富山の方向に変化しており、夏場も福井県や加賀の温泉郷は苦戦する。
		観光型旅館（スタッフ）	・8月までの予約状況は前年、前々年を上回っているが、9、10月は前年を下回っている。
		旅行代理店（従業員）	・先の見えない原油高の影響で家計が圧迫され、客は家族・グループ旅行など不要不急の観光性旅行を見合わせる。また、企業も業務出張以外の旅行計画の見直しを行う。
		タクシー運転手	・今後に期待できる材料が見当たらない。8月にはオリンピックが開催されるため、客はテレビ観戦のため夜の街へ繰り出す回数を減らす。
		テーマパーク（職員）	・現在の予約状況からは回復の期待は持てない。また、利用客の消費金額も厳しい見通しである。前年比の売上でもマイナスとなる。
		パチンコ店（店員）	・日用品の価格が上がり、余暇を楽しむお金が減っているため、厳しい状況が続く。
		その他レジャー施設（職員）	・来客数、客単価などからみて、売上の上昇傾向は見られない。客単価の高い県外客の日帰り・宿泊利用も減っているため、厳しい状況が続く。ほとんどの来場者がマイカー利用のため、原油高騰の悪影響が大きい。
		住宅販売会社（経営者）	・原油高騰により、ガソリン価格や建築資材が値上がりしており、消費者の買い控えが強まる。
		住宅販売会社（従業員）	・これから物価高騰の影響が徐々に広がり、新築よりリフォームの動きが多くなる。新築の客にはあまり期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・ガソリン、食品などの値上げが相次いで行われるが、業界でも鉄板関連商品が7月から約10%値上げされる。客の買い渋りがますます広がる。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・来月以降もガソリンを始め値上がりする商品が多く、来客数、販売量などが更に減少する。
		百貨店（営業担当）	・原油だけでなく、あらゆる物が値上げされており、客からは「買い控え」や「節約」の声が目立って聞こえてくる。今後、買物量の減少は避けられない。
		スーパー（総務担当）	・今後も商品価格（特に食品）の値上げが予想されるため、景気が低迷するおそれがある。全体的に出費を抑制する兆しが客に表れ始めている。
		自動車備品販売店（従業員）	・石油高騰の流れは変わらず、マイカーの使用も節約ムードになっている。消費意欲の低下傾向は更に加速する。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（企画担当）	・7月後半から、原材料費上昇分の値上げを実施する。販売量の推移に注目している。
		化学工業（総務担当）	・受注量が増加傾向にある。
	変わらない	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・業者は商品が売れないため、折込チラシを入れる余力がないという状況である。6月のような大幅な減少にならないまでも、当面はマイナス基調で推移していく。
		税理士（所長）	・物価上昇が続いているが、最大のかぎはサラリーマンの所得が増加するかどうかである。ただし、中小企業は原材料高を価格に転嫁できないため、賃金を上げづらい状況にある。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・国内、輸出市況共に厳しく、受注量、売上が減少する。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・原油価格の更なる値上げや鋼材価格の値上げが予想され、消費に影響が出てくる。
		輸送業（配車担当）	・原油の相次ぐ値上げにより、生産コスト等が上昇し、商社などの買い控えの影響を受け、物量の動きが鈍くなる。
		輸送業（配車担当）	・原油価格は上がり続け、運賃に占める燃料費の割合が更に高くなっている。原油先物価格も140ドルを超え、7月のガソリン価格は180円と今後も下がる気配がない。
		通信業（営業担当）	・すべての商品において販売が滞っている。設備投資をできるだけ抑えようとする企業の態度がうかがえる。
		司法書士	・大口の倒産があり、金融機関や取引先からの登記情報の取り寄せが大量にあった。今後の影響が懸念される。
	悪くなる	繊維工業（経営者）	・目先の原油高の不安もあり、先行きは不透明である。景気を取り巻く環境は厳しさを増すばかりで、消費者も業者も委縮している。
建設業（総務担当）		・受注競争の激化に加え、工事原材料価格が上昇し、下請業者の倒産が増加している。受注、発注共にますます厳しさが増す。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業から求められるスキルが年々高くなっているため、なかなかマッチングができない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気全体の傾向は下降線をたどるが、7月に東海北陸自動車道が全線開通し、地域経済がにわかに活気付く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・原材料高による諸物価の高騰、派遣求人数の減少などから判断して、現状維持も難しい。
		職業安定所（職員）	・景気の先行き不安から求人募集に慎重な姿勢をとる企業もあり、求人数の増加は見込めない。
		職業安定所（職員）	・原油高騰による原材料価格値上げの影響を受け、企業業績は悪化する。
民間職業紹介機関（経営者）		・原材料、ガソリンなどコストアップ要因が多くあるため、企業では採用を自重している。	
悪くなる	-	-	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・7～8月の夏休み期間にはプロ野球の人気球団の試合などが予定されているほか、アイドルグループのコンサートや子供向けのイベントなどが開催されるため、多数の来場者が訪れる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや良くなる	コンビニ（店長）	・前年に続いて今年の夏も暑くなるため、ソフトドリンクなどの販売量が全体的に増える。
		家電量販店（経営者）	・デジタル放送の開始やオリンピックの開催により、AV機器への需要が高まる。
		高級レストラン（支配人）	・サミットによる警戒の強化で観光、ビジネス客が少なくなり、販売量も落ち込んでいるが、今後は回復に向かう。
		通信会社（経営者）	・新商材の発売により買い換え需要が掘り起こされるほか、7月には大手通信会社によるキャンペーンが行われるため、市場が盛り上がる。
		通信会社（企画担当）	・出遅れていたゲーム機の普及が進むのに伴い、今後はゲームソフトの売上が伸びる。
	変わらない	一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・最近では機器販売が落ち込み、プリント需要に依存している状態であるため、今の状態が維持できればよい。
		百貨店（売場主任）	・ユーロ高、素材の高騰などで値上げが更に進み、消費者の財布のひもが固くなる。
		百貨店（売場主任）	・ジャケットなどの主要アイテムの動きが依然として鈍く、上向き気配もない。
		百貨店（売場主任）	・家計悪化の影響を受けやすい紳士服については、買い控えがますます増える。
		百貨店（企画担当）	・衣料品を中心に、消費の低迷が続く。
		スーパー（経営者）	・国産品への信頼を無にするような産地偽装事件もあるが、オリンピックの開催で家庭での食事が増えるため、売上が伸びる。また、食品の値上げが進むことで、比較的低価格の商品を扱っている当社への来客数が増える。
		スーパー（経営者）	・燃料の高騰で遠出が控えられ、地元での消費が増えている。ただし、全体的な買い控えが続いているため、売上全体としては変わらない。
		スーパー（店長）	・これからも電気やガス、そのほかの商品でも値上げが続くことから、良くなることはない。
		スーパー（経理担当）	・今年は海外旅行、国内旅行共に低調であり、内食需要が高まるため、食品スーパーにはプラス要因となる。
		スーパー（管理担当）	・偽装表示などで食品に対する不信感があるほか、値上げも徐々に浸透することから買い控えがおこる。
		乗用車販売店（経営者）	・7、8月の連休需要が見込まれるものの、その動きが全くみられず、客足は鈍い。
		乗用車販売店（営業担当）	・新車販売の目標台数は上がっているものの、客の様子をみると中古車や修理にお金が回っている。
		乗用車販売店（営業担当）	・例年は夏のレジャーシーズンに向けて購買意欲が高まる時期であるが、ガソリン価格の高騰により、自動車では移動しないユーザーが増える。
		その他専門店〔医薬品〕（店員）	・暑くなるにつれて健康関連の商品がよく動くが、最近の健康食品関係の報道で、客の様子が若干変わりつつある。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・新しいブランドの展開を検討しているが、宝飾品は購入の優先順位が高くないため、どこまで客が動くかは不透明である。
		一般レストラン（店員）	・近隣に新しくできたチェーン店に行く客が増える。
		観光型ホテル（経営者）	・夏休みは個人客の宿泊が増えるが、今の予約状況を見ると、かなり宿泊単価を下げなければ集客は難しい。
		観光型旅館（経営者）	・地元で倒産が続き、不況感が充満している。旅館のようなレジャー施設は明るいニュースがないと落ち込むため、数か月で状況が好転することはない。
		都市型ホテル（マネージャー）	・堅調な宿泊部門に多少の期待は持てるものの、オリンピックの開催や東京での大規模イベントの開催などで、大阪への来訪は減少する。宴会部門も予約状況は芳しくなく、現状維持が精一杯である。
		旅行代理店（広報担当）	・北京オリンピックが始まれば外出が減るため、好調な国内旅行にも影響が出る。その一方、中国の生活文化などの報道が増えることで、オリンピック後の海外旅行需要が高まる。
		観光名所（経理担当）	・ここ数か月は買物袋を下げている観光客数も少ないなど、し好品の売上が伸びていない。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・来月に行う無料体験キャンペーンの結果によっては、生徒数が増加する。
その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・株値の低迷や、原油高などによる物価の上昇により、生命保険への新規加入を検討するケースが減少している。		
住宅販売会社（経営者）	・相変わらず良くなる材料は見当たらない。今後も建材価格などの上昇により、営業面では厳しくなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・住宅分譲を取り巻く環境は非常に悪く、集客状況、契約決定率共に非常に悪い。特に、ガソリンや日用品、食料品の値上げが大きく影響しており、今後も厳しい状況が続く。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・徐々に閉店する店が増えているほか、店ごとに休日があれば閉店時間も早まっているなど、先行きの見通しは厳しい。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・7月以降、文具事務用品でも多くの商品が値上がりする。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・7月から様々な物が値上がりすると報じられているが、特に若い客はそれに見合う収入がないため、買物をする気にならない。
		一般小売店〔ゴルフ用品〕（店長）	・物価が上昇するなかで、し好品のゴルフクラブにまでお金が回らない。
		一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	・3～6月の売上を上位5店舗の平均でみると、関西は前年比95.7%と芳しくない状況であり、今後も不安定な状況が続く。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・これからギフトシーズンに入るが、中元は歳暮よりも節約される傾向にある。今年は特に景気全体の動きも悪いため、雰囲気が悪い。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・食料品の相次ぐ値上げにより、身の回りの衣料品では買い控えが進む。
		一般小売店〔自転車〕（店長）	・このまま原油の高騰が続けば、値上げの検討も必要となる。
		一般小売店〔楽器〕（販売担当）	・様々な商品が値上がりするため、趣味の部分にまでお金が回らず、販売量が減少する。
		百貨店（売場主任）	・ファッション商材には必需品となるアイテムがないほか、様々な物価の上昇で財布のひもが固くなっているため、現状よりも良くはならない。
		百貨店（企画担当）	・セール品や低価格品以外は動きが悪い。特に宝飾関連の動きが鈍くなっている。
		百貨店（営業担当）	・高額な紳士服を購入していた経営者などで、今シーズンは新調を控えるケースが増える。
		百貨店（サービス担当）	・工事の影響で来月から営業面積が減少し、客に迷惑を掛ける状況が続くため、前年実績の確保は難しい。
		百貨店（売場担当）	・客の間では衣料品を買う余裕がなくなっており、夏物衣料は7月からのクリアランスセールで動き始める。ただし、その後の秋物商戦も大きなトレンドがないため、苦戦が続く。
		スーパー（店長）	・生活必需品しか動かなくなっており、ファッション性の高い衣料品は販売点数が更に悪化することになる。
		スーパー（管理担当）	・原材料高は収まる気配がないほか、新たに発覚した食品の偽装問題により消費者の不信感が更に高まる。
		コンビニ（店長）	・来客数が減少傾向にあるほか、今後は消費全体が冷え込むため、客単価が落ちてくる。
		コンビニ（店長）	・タスポの普及が進むのに伴い、多少は来客数が以前の水準に戻る。
		乗用車販売店（経営者）	・ガソリン価格の上昇で車に乗る頻度が減っているため、新車の販売や修理、車検などの予約が少なくなる。
		一般レストラン（経営者）	・様々な商品の値上がりで家計に負担が掛かるため、外食に出掛ける回数が減る。
		一般レストラン（スタッフ）	・原油や穀物価格の高騰が生活必需品の値上がりにつながり、生活を圧迫し始めている。自動車での来店を前提とした郊外型店舗には、今後深刻な影響が出てくる。
		観光型ホテル（経営者）	・ガソリンの高騰などで来客数が減ってきており、今後も厳しい状況が続く。
		観光型旅館（経営者）	・原油高や高齢者の医療制度問題などでレジャー消費が控えられており、売店の販売状況も悪化している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・原油や生活関連商品の値上がりにより、接待費の削減や日帰り出張を徹底する企業が増えている。一般客でも、外食回数を抑えるという声が目立ち始めている。
		都市型ホテル（役員）	・9月の連休が飛び石になっているなど、宿泊予約の状況は個人客、団体客共に悪い。宴会では予約件数が伸びているものの、大型宴会が中止になったことで、売上ベースでは厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（営業担当）	・宿泊は、夏休みの個人予約が前年並みに入っており、特に旅行代理店からのインターネット予約が増えている。ただし全体的には、最近では実際に伸びる傾向があるものの、7月前半の予約に全く勢いが無い。一般宴会も7月以降は特別な宴会がなく、予約は伸びていない。
		旅行代理店（経営者）	・燃油サーチャージの問題は当面解決が難しいほか、最近の景気後退ムードが客の心理に与える影響も大きい。
		タクシー運転手	・食料品などの値上げによる影響が、低所得者や高齢者に大きく出てきている。それに伴い、外出時のタクシー利用を控えるといった節約がますます増える。
		タクシー運転手	・タクシー会社の売上は全体的に減少しているものの、タクシーの台数は減っていないため、1台当たりの売上が落ちてきている。
		観光名所（経理担当）	・来客数に陰りが出てきている。夏に向かってイベントを強化するが、前年の水準を上回るには困難である。
		美容室（経営者）	・最近、2～3店舗が新規オープンしたものの、人通りが少ない立地であるため見通しは暗い。
		住宅販売会社（総務担当）	・イベントや広告を行っても集客状況が悪く、原油の高騰などの先行き不安もあるため、客が契約に踏み切れない状態が続く。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・マンション販売の不調や、地価の下落傾向が続いており、新築需要の喚起は難しい状況にある。
	悪くなる	商店街（代表者）	・値上げ品目が今後も増えるため、ボーナスが支給されても外出はあまり増えない。
		百貨店（商品担当）	・相次ぐ値上げのニュースで顧客心理が冷え込んでおり、特に10万円を超える高額品の動きが鈍い。接客していても無駄な物は買わないほか、2万円以上の価格に対して非常に敏感になっている。
		スーパー（店長）	・食料品を中心とした値上げが続くなか、客の間では節約志向が更に顕著となり、食品以外の衣料品、住居関連商品の買い控えが進む。
		衣料品専門店（経営者）	・物価の上昇に対して主婦は節約に努力しているため、婦人服やぜいたく品には手が回らないのが現状である。少しでも欲しい物があれば、バーゲンが始まるまで待つため、8、9月はかなり落ち込む。
		乗用車販売店（経営者）	・原油の高騰や物価の上昇、可処分所得の減少など、車の購入にマイナスの要素ばかりが目立つ。
		乗用車販売店（営業担当）	・同業者が価格を下げていくため、こちらも下げざるを得ない状況である。
	その他専門店〔食品〕（経営者）	・値上げすると客が減るという懸念から、飲食店では個人店舗を中心に値上げが進んでいない。このままでは閉店する店が出てくる。	
	一般レストラン（スタッフ）	・今後も値上げが進むため、客の動きはますます鈍くなり、来店回数が減少する。	
	競輪場（職員）	・ガソリン、食料品などの大幅な値上げにより、レジャーに使う費用が確実に減少している。こうした状況が、今後数か月のうちに好転することはない。	
	住宅販売会社（経営者）	・同業者からの話を総合しても、上向きの情報は全くない。流通在庫の増加や地価の下落など、秋ごろまでは後退が続く。	
	住宅販売会社（従業員）	・マンション、戸建ての販売状況が非常に悪いほか、銀行の不動産会社に対する融資姿勢が厳しくなっているため、資金繰りの悪化が加速する。	
	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・原油や資材の高騰でコストが上昇する一方、消費者の購入マインドが高まる要素は少ないため、更に厳しい状況となる。	
企業動向関連	良くなる やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・販売価格への転嫁は十分に進んでいないものの、受注量は増加の兆しが顕著になっている。
		輸送業（営業担当）	・当社はすべての運賃を10数年ぶりに値上げしたが、荷主には簡単に認められた。燃料高に伴う運賃の値上げは理解を得られやすい。
	変わらない	繊維工業（団体職員）	・原油高騰により、外注加工業者からの更なる値上げ要請が来ているなど、採算の悪化が進む。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・原材料の値上げが続く一方、販売価格への転嫁は難航するため、悪くなることはあっても良くなることはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（管理担当）	・建材関連の市況回復が遅れており、先が読めない。取引先からも芳しい声は聞かれない。
		金属製品製造業（総務担当）	・学校などで耐震工事の需要はあるものの、公共工事が増えることはないため、まだまだ厳しい状況が続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・鉄鋼関連の顧客からの引き合いがやや低調であり、設備投資の計画も少ない。今後もこの傾向が続けば、業況は低調となる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原油などの資源高の影響は予想以上に大きく、今後はコストが上がってくるため、大きな影響が出る。
		建設業（経営者）	・鉄をはじめとする建設資材が急騰しているほか、依然として受注競争は激しいため、今後も厳しい状況が続く。
		建設業（営業担当）	・短期的には変化はないものの、年末や来年には建設業も悪化する。
		輸送業（営業所長）	・燃料が毎月値上がりしている状態で、利益が圧迫されている。
		輸送業（総務担当）	・客からの明るい情報がないほか、原油価格の動向も不透明である。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・原材料価格の上昇に伴って値上げが増えているものの、売上の伸びている商品は少ない。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・食品全般で値上げが発表されるなか、まだ実際に価格の上がない商品も、これから価格改定が進む。それに伴ってますます買い控えが進み、必要な物しか購入しなくなる。
		繊維工業（企画担当）	・知り合いの店舗での閉店や廃業が相次ぐなど、様々な意味で余裕がなくなっている。
		繊維工業（総務担当）	・大手量販店からの処分品による値下りの影響が大きいほか、特に夏場は動きが鈍くなるため、例年よりも注文が減る。
		金属製品製造業（経営者）	・原材料や資材の値上げに対する製品価格への転嫁が難しく、採算ラインを割る製品も出てくる。
		金属製品製造業（管理担当）	・今後も鋼材、燃料、電気、消耗品などあらゆる物が値上がりするため、販売価格の設定や利益の確保が難しくなる。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・オリンピック後は商品の荷動きが低迷する。
		金融業（営業担当）	・自動車部品製造業などの取引先では価格転嫁が進んでいないため、当分は収益の悪化が続く。また、不動産業や建設業の取引先では、資金繰りの悪化により倒産が増える。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込み広告の収益が悪化し、新規購読の獲得も思うように伸びないなか、経費削減を理由にスポーツ紙の購読を控える企業が出始め、実配数も落ちている。
		広告代理店（営業担当）	・夏に向け、関西地域の広告出稿は厳しい話しか聞こえてこない。
		司法書士	・現在進行中の案件も少なく、特に良くなる材料も見当たらない。現在の状況も決して良くないが、現状維持すら難しい。
悪くなる	繊維工業（総務担当）	・食料品やガソリンなどの値上がりや企業業績の悪化懸念から、消費者の間では不安が広がっており、靴下への支出も急激に減少している。製造コストの上昇分を製品価格へ転嫁することもできず、二重苦の様相となりつつある。	
	化学工業（経営者）	・半年以上先の大型物件には幾つか問い合わせがあるが、夏から秋にかけてはそういった話もなく、売上の見通しが立たない状況である。	
	化学工業（企画担当）	・原料価格が高止まりしており、数年前の状況に戻ることはない。	
	金属製品製造業（営業担当）	・複数の客からは、先の受注が減少傾向にあるとの声が聞かれる。	
	一般機械器具製造業（設計担当）	・今後、企業が更なる経費削減を進めるなかで、いずれ設備投資も打ち切られることになる。	
	不動産業（営業担当）	・不動産ファンドが土地を買えなくなっており、今までは買手であったファンドが売手に回っている。今後も資源高やインフレが続く限り、不動産価格も下落が続く。	
	広告代理店（営業担当）	・月ごとの広告受注の落ち込みに歯止めが掛からなくなっている。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・派遣需要が極端に落ち込むことはないものの、新規求人を探る動きは今後も続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（職員）	・建設日雇求人はこれ以上悪くなりようがない。一方、今後は季節的要因でやや回復に向かうが、今年はそれすら不透明との声も聞かれる。
		民間職業紹介機関（支社長）	・企業による採用が慎重になる状況は変わらないが、採用ニーズそのものは大きく落ち込んでおらず、しばらくは今の状態が続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・取引先でIT関係の業務が先延ばしとなっているほか、いろいろな事件の影響で派遣業界全体のムードが暗くなっている。企業に人が余ってきている状況は今後も変わらないため、7～9月は厳しく、反転するとしても10月以降になる。
		人材派遣会社（支店長）	・日雇派遣問題や、派遣社員による事件の報道により、業界全体のイメージは確実に悪くなっている。業界全体が逆風にさらされる状況がしばらく続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・医療関係の求人の企画などで打開を図っているものの、好転の兆しがみられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・第2四半期の新聞広告の受注が前年比で約80%と、低調な推移が続いている。
		職業安定所（職員）	・今後も原油や原材料価格が高騰すれば、各企業共に収益が悪化し、求人の抑制が広がることになる。
		職業安定所（職員）	・卸売、小売業からのパート求人は増加しているものの、正社員求人がそれを上回って減少していることから、求人全体でも減少がみられる。
		職業安定所（職員）	・製造業、運輸業の求人数が大幅に減少しており、地域にも活気がない。
		職業安定所（職員）	・前年と比較して高卒求人の出足が鈍い反面、正社員での採用を希望する動きは続いている。特に、製造業を中心に20代前半の派遣社員による来所が増えている。一方、65歳以上の女性が生活に不安を感じ、職探しをする動きが増えているなど、上向きの材料が見当たらない。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・安定雇用を求める人の増加で転職市場が停滞しており、しばらくは今の状況が続く。

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	百貨店（売場担当）	・新規オープンの大規模ショッピングセンターに勤務することになったが、平日の夕方までは主婦や友達同士で来店する客が多く、週末は家族連れの子が多い。また、飲食街が充実しているため、お昼時や夕方は長蛇の列で順番を待っている。地域初の出店なので、かなりの来客がこれから先も見込める。
	やや良くなる	コンビニ（エリア担当）	・今後もタスポカードを作らずに、店でたばこを購入する客に期待ができる。
		その他専門店〔カメラ〕（店長）	・体質改善や品揃えの変更、系列店の業態変換を通して少し上向きになってくる。
		美容室（経営者）	・全体的には下降線にあるサロンはなくなってきているので、3か月先には採算の悪い店がなくなり、収益も良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街への新規開店も無く、通行する客が減少している。中心市街地の人口が減少傾向もあり、生鮮品を扱う小さな店が成り立たない状況になっているため。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・9月末に市議会選挙があり、街に活気が出るのではないかと。
		百貨店（営業担当）	・秋冬物の商戦がスタートし流れが好転するかもしれないが、現在の消費に対して全般的なマイナストrendがあり、これを覆す期待を持てるトピックスがない。
		百貨店（電算担当）	・客の財布のひもが固い。消費を促進する刺激が欲しいが、当面見当たらない。
		百貨店（購買担当）	・今年は猛暑がかなり長く続くという予想で、秋冬物の動きがどうなるのか不透明である。また、アパレル業界でも、今年のヒット商品というのが出てきていないので、先行き不安定な状況が続く。
		スーパー（管理担当）	・同商圏内に競合2店がオープンし客の買い回りが多少見受けられるため、販売量の伸び悩みが続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・客の店舗の業態による使い分けは更に加速し、コンビニエンスストアではたばこだけ、など決めてからの購買シーンが見受けられる。異業種の競争・同業種の出店はこれからも続き、環境を厳しいものにしていく。
		コンビニ（エリア担当）	・5～6月とたばこの売上が増加している。この状況は来年の4月まで続くと思われるので変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・今の状況は若干のぶれはあっても継続すると思われる。小さな市場での出店予定があるので、まわりの店の動向が気にはなる。売上自体のやや良い状態は今後も続くと思われるが、既存店のフォローが厳しい。
		コンビニ（エリア担当）	・5月からのtasポカードの導入で、今月もたばこを販売するコンビニは全般的に売上は上がっている。ただし問題なのは、来客数が伸びて他の売上も伸びれば良いが、たばこのみが売れて他の売上は微量に過ぎない。これはコンビニにとって一過性のものに過ぎず、全体としては良いとは言えない。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・売出しも終わり閑散期に入る状況の中で、景気が現在より回復傾向になるとは考えにくい。
		家電量販店（店長）	・目の前に北京オリンピックという一大イベントが控え、それに期待するしかないのだがなかなか需要に結びつかず、現在の悪いままの状況が続く。
		乗用車販売店（統括）	・7～9月は需要月であるので6月よりは良くなるが、前年と比較すると厳しい状況となる。
		乗用車販売店（サービス担当）	・何か打つ手も無いまま、しばらくこのままの状況が続く。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・物価の値上がり等、環境が悪すぎる。しばらくはこの状態が続く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・本来であれば、夏休みの動きも考慮する時期だが、いつも通りの動きが出るか心配である。ガソリンの更なる高騰は、今後の動きに大きくかかわってくる。
		タクシー運転手	・7月は民間企業の賞与等の動きもあるので、6月に比べれば多少は良いと思われる。ただし観光・開府400年祭・NHKの連続ドラマ等イベントは入るが、今年は売上が1月から6月まで前年比で約1割ダウンしており、非常に厳しいものになる。これから先、急速な景気回復はない。
		通信会社（社員）	・ボーナス時期となり、新規PC購入などによる通信利用が考えられるが、売上増までは至らない。
		通信会社（企画担当）	・値上げ傾向の中で、弊社サービスは価格の変動が少ない商品だが、顧客向けに価格対比の営業説明をすると、むしろ他社からの移行の機会が増えてくる可能性がある。その意味で、値上げをしなければ、販売量はむしろ期待がもてる。
		通信会社（販売企画担当）	・市場が飽和状態であり、競合他社との競争も激しいことから、大幅な販売数の向上は見込めない。
		通信会社（総務担当）	・大手通信事業者の攻勢等により、厳しい状況が続く。
		テーマパーク（財務担当）	・季節的要因を除いて考えると、ガソリンをはじめ諸物価の上昇等の影響も無視できず、景気にプラスとなる要因は見当たらない。
		テーマパーク（広報担当）	・県外客が動く時期になれば若干は回復すると期待している。ただし経営の安定化のためには地元客の確保が必要であり、長期的には悪くなる。
		設計事務所（経営者）	・景気が良くなるとも思えず、消費者もしばらく様子見の状況となる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・中心市街地で商売をしているが、郊外に別の大型店ができた影響もあるし、更にまた近郊に別の大型店ができていくということもあって、ジリ貧状態になっている。車社会ということもあり大型店は集客性があり、これが恒常化してくると中心部は今後も苦戦をせざるを得ない。松江市中心部は、最近、観光客・一般市民含めて、食の仕事だけが好調のようである。
		商店街（代表者）	・ガソリンを始めとする物価高で、良い材料が全く見当たらない。良くなしてほしいが、難しいのではないかと。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・商業施設内の店主会で、今年の目標を前年度と同じ数値にすることが決まった。これから厳しい1年になりそうである。
		百貨店（営業担当）	・秋口も残暑が予想されており、秋物の動きが悪くなると思われる。各種値上げにより家計が圧迫され、婦人服購入は鈍化する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・食材やガソリン価格の高騰で、消費者は生活防衛型の消費になっていく。
		百貨店（販売促進担当）	・中元の6月早期受注への前倒し、セール商品の適品不足、8月の盆帰省商戦の郊外ショッピングセンターへの顧客流出等、市場において景気の回復感は見えない。
		百貨店（販売促進担当）	・少しでも良いから持ち直して欲しいという期待はあるが、生活に直結した食品等物価の上昇、周辺ショッピングモールにおける売上状況等を見ると、とてもすぐに売上が回復するとは思えない。しばらくはじっと耐えるしかない。
		百貨店（売場担当）	・ガソリン価格の高騰など、いろいろな商品の価格が上昇しまたエコ意識もあいまって、ますますぜいたく商品や正価販売商品の売行きが鈍化する。
		百貨店（販売担当）	・ガソリン価格の更なる値上げや、諸物価の引上げなどにより、今後ますます消費者の購買意欲は低下する。
		スーパー（店長）	・地域最大店の新規店舗オープンによる競争の激化で、売上・粗利の確保が厳しくなる。また、更なる商品の値上げの影響も出てくる。
		スーパー（店長）	・今後原油価格の値上げに伴い、あらゆる商品の値上げが予想される。そうした中で、景気も後退せざるをえない。
		スーパー（店長）	・原材料の値上げで商品価格が値上がりしている。5%～20%強の値上げになっている。また、ガソリン代も値上げが続いているので、これから先は、消費の落ち込みが少しずつ見られるようになる。
		スーパー（店長）	・店頭に立ってみると、ガソリン等の生活に密着している物が値上がりしているなかでは、生活雑貨等の身の回りの物までお金が回らないという客の声をしばしば耳にする。このことから、当店のように雑貨中心に取り扱っている店では、今後ますます厳しくなる。
		スーパー（店長）	・ガソリンはまだ上がるような感じがあり、他の商品もそれに追随するように値上げになりそうで、消費も悪くなる。
		スーパー（財務担当）	・競合店の出店の影響及び価格上昇による買い控えにより、売上が減少する。
		スーパー（経営企画）	・ガソリンを始めとする物価の上昇が家計を圧迫する。生活防衛意識は更に高まる。
		スーパー（販売担当）	・食料品の値上げや偽装問題等で、更に買い控えが進み、景気が悪くなる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・7月にも競合店のリニューアルオープンがあるので、売上が減少する。
		家電量販店（店長）	・諸物価の高騰により、大型家電製品などの耐久消費材の消費が鈍っている。オリンピックによるテレビ、録画機器の需要の高まりが一時的にあると思われるが、長続きはしない。
		家電量販店（店員）	・現在はオリンピック需要で単価も上昇しているが、3か月後はそれも終わり今月より悪くなる。
		乗用車販売店（店長）	・新型車が投入されたので、来客数は増えたが、ガソリン等の価格高騰の影響により成約に結びついておらず、この状況が続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・今月は新商品効果が持続した形となったが、下旬に向かいその効果もやや下火となりつつあるので、良くならない。
		自動車備品販売店（経営者）	・今後も諸物価、特にガソリン価格の上昇が見込まれるため、客の動きに悪影響を与える。
		その他小売（営業担当）	・各種の物価上昇に伴い、購買意欲の減退が進む。
		高級レストラン（スタッフ）	・ここ1～2か月は昨年と同じような予約状況だが、3か月先は昨年よりも予約が少なく、あまり良い状況ではない。
		一般レストラン（店長）	・宴会予約コースの値上げも考えており、厳しい状況が続く。恒例のビアガーデン対策（生ビールフェア）もわずか3日と今年は短縮せざるをえない状況である。
		一般レストラン（店長）	・景気の先行きが不透明であり、客はボーナスが出たからといって消費するよりも貯蓄に回すと思われるので、来客も伸び悩む。
		都市型ホテル（経営者）	・前年同時期と比較して客数が減少している。原油高騰により個人消費の落ち込みがみられる。
		都市型ホテル（従業員）	・宿泊の団体予約状況が、前年に増して減少傾向にある。インターネット普及等により個人予約にシフトしていることも考えられるが、企業、一般団体の行事が減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（総務担当）	・重油以外にも原材料の高騰が続き、すべては物価へ転嫁されている。当方も追従したい所だが、強気な商売は不可能であり、収入の増大が見込めない。よって、予算到達は難しい。
		タクシー運転手	・諸物価の値上げの問題もあり、これからも大変である。
		タクシー運転手	・市や県の赤字の数字を具体的にあげて会話する客が多い。それを聞き、こちらも不安になる。落ち込みを体感している現状では、3か月先も良くならない。
		通信会社（通信事業担当）	・新規加入の問い合わせなどが非常に少なく、近い将来加入に結びつきそうな客のリストが非常に少ない。
		通信会社（営業担当）	・訪問先企業等においても、円高の影響などで慎重な意見が多く聞かれる。
		ゴルフ場（営業担当）	・天気に左右されると思われるが、事前の予約数は低調である。近郊の同業者も同様のため、これからいよいよ単価が下がる傾向になる。
		設計事務所（経営者）	・20歳代の1次取得者の住宅取得意欲は高いが、所得の伸びが低く消費が伸びない。30代半ばに入ると教育費等の出費がかさみ住宅購入に慎重になり、現状では改善の材料がない。
		設計事務所（経営者）	・大型倒産の情報があり、ガソリンの値上げによる消費商品の値上げと、恐慌の始まりのような雰囲気さえ感じる。個人の努力はとっくに限界にきているが、政府からの対応が何も聞こえてこない。それどころか増税の話など、悪い情報しかない。
		設計事務所（経営者）	・建築物価の高騰が解消される見込みがない。今後、金利の上昇や環境に配慮しなくてはならない市条例の整備が予定されるので、更に建設費が上昇し、ますます事業の採算性が悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者の減少、原価の上昇傾向が、更に強まってきている。
	住宅販売会社（販売担当）	・展示場、イベント見学会への新規来客数が減少しており、今後の販売減が避けられそうにない。	
	悪くなる	商店街（代表者）	・商店街内の地元百貨店が閉店した。次の入居百貨店は決まっているが、それまでの1～2か月はクローズが続くので地域としての集客力が落ちる。
		商店街（代表者）	・所得は伸びないのに、ますます物価が上がりそうなので、消費マインドは低下する。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・何も明るい話題が無く、我々も新商品などの展開をしているが、それに消費者の人たちが反応しないので、当面良くならない。
		百貨店（売場担当）	・上半期の売上推移が悪く、過去にない経費削減で、広告媒体も大幅カットする。人件費の削減もはっきりしており、しばらく大きく売上を増加できる要素がない。
		コンビニ（エリア担当）	・ガソリンの値上げ等で、人の動きや物の動きがい縮んでいるので、この状態が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・同業者のみならず、商店街の異業種も大変悪くなっているため、良くならない。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・客の話を聞いても景気が良い話を聞かないし、客の来店頻度も減ってきており、一般客も財布のひもが固く景気が良くなる兆しも見えない。
		住関連専門店（広告企画担当）	・必要最低限で済ませようとする動きが、今後も強くなる。
その他専門店〔書籍〕（従業員）		・出店競争による競争激化が今後も続く。	
観光型ホテル（経理総務担当）	観光型ホテル（経理総務担当）	・当社は、7～8月が繁忙期であるが、空室が目立つ。例年では、この時期には既に満室になっているはずのお盆期間も、まだ空きがある。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会では7～8月等、先の予約がさっぱりで、間際にならないと予約が入ってこない。	
	旅行代理店（営業担当）	・燃料問題と、団塊世代の方の景気の動向が悪いため、将来を考えて、旅行どころではない模様であり、これからも良くならない。	
	美容室（経営者）	・当店も最近は毎月数%ずつ売上・来客数共に減少している。他店も同じような状況らしく、これから先が心配である。	
	企業動向関連	輸送用機械器具製造業（経営者）	・7～8月はクライアントである地元自動車メーカーの夏イベント等の受注もあり、また、飲料水関係の受注も入っているので良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや良くなる	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・新製品の好調な売行きにより、生産量が増加していく。
	変わらない	化学工業（総務担当）	・原燃料価格の高騰がいつ収まるのか、先行き不透明である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・原材料価格の高騰の影響が大きく、また、新規案件の引き合いも少なく、生産量の拡大も見込めない。
		鉄鋼業（総務担当）	・自動車・造船・産業機械を中心とした需要は依然として旺盛であり、粗鋼生産量も引き続き堅調に推移していくものと予想している。しかしながら、原材料高などを受けて製品への価格転嫁など進めているが収益面に影響が出ることは必至の状況。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車・携帯関連共に、強気の受注計画が見えてこない。エアコン関連も猛暑の気配がはっきりしないため慎重な生産計画となっており、全体的に冷え込んできたような受注傾向となっている。
	やや悪くなる	金融業（業界情報担当）	・米国経済の停滞は続くが、アジア圏では引き続き堅調が予想され、当面は高水準の受注を維持する見込み。
		農林水産業（従業者）	・沖合底引船は6月から8月のお盆まで資源保護のため休漁する。燃料高騰の影響で、船主は8月お盆から後の出漁をどうするか苦慮している。
		食料品製造業（総務担当）	・大きな動きとして月末を迎えるにあたり業務提携という話が持ち上がり、今後の発注や製造すべてにおいて不透明で不安である。
		化学工業（総務担当）	・原油関連の価格が厳しく収益を圧迫しているため、一層コスト削減を強化する。
		金属製品製造業（総務担当）	・4月に原材料価格の値上げがあったが、8月には更なる値上げがほぼ確実な状況である。社内だけで吸収することは難しいため、得意先へ価格転嫁を要請しなければならない。また秋以降の再値上がり等、懸念材料は尽きない。
		建設業（経営者）	・自身の事業に関しても先行き不安であるが、下請けの専門業者が苦境に立たされていて、もういかにして傷口を小さく廃業するかという状況になりつつある。需要に対する供給が安定するまでには、まだ相当時間が掛かると思われ、しばらくは厳しい状況が続く。
		建設業（総務担当）	・建設資材等の値上げが今後も続く。
		通信業（営業企画担当）	・通信サービスはメンテナンスコストが上昇する反面、一般の製造商品などと違って販売価格アップを望むことは困難なため、現状のサービスレベル維持にも支障をきたしつつある。業界あげて組織見直し・再編等の厳しい取り組みが続く。
	悪くなる	金融業（営業担当）	・停滞から沈滞へ沈んでいくような感じになっている。原材料・ガソリン代の値上がり等で企業業績は低迷し、不動産賃貸業においても、テナントからは賃下げ要求が強まっている。戸建住宅では入居率が悪くなって、安いところへどんどん流れており、今後もこういったところが増えてくる。
会計事務所（職員）		・建設も含めた製造業の業績悪化が、すべての業種に波及してきている。その上、燃料や材料費のコストアップが、中小零細企業にとっては利益の出にくい状況になっていく。	
悪くなる	輸送業（統括）	・現状の顧客の取り合い、値引き競争が、今後ますます激化していく。そのため当社の業績は悪化する。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（担当者）	・求人数は徐々に落ち着いてきているが、それでも横ばい状態にあり、これからもその程度で推移する。
		求人情報誌製作会社（担当者）	・来期の採用については前年並みのペースで検討されているが、前年より強化するポイントの話が少ない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人数は前年と変化はないが、派遣、契約の求人が増加傾向にある。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（支店長）	・石油をはじめとした資源高騰の歯止めがきかない状況で、求人についても悪くなる。
職業安定所（職員）		・県内の企業は、中小企業を中心に今後も幅広い業種での倒産、大幅な人員整理が見込まれており、労働市場全体に求人意欲が冷え込みつつある。	
職業安定所（職員）		・原油高が続くと思われること、食品等の値上がりも続いていることなどから、地元の小規模事業者はそれらの影響を受け、雇用も悪くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・ガソリン代の値上げ等の影響によって企業に負担が掛かり、正社員の採用を控えパートで対応するケースが増えてくる。
		職業安定所（雇用開発担当）	・平成21年3月新規学校卒業者を対象とした求人説明会を開催したが、参加企業数は前年と比較して2割減少した。中途採用だけでなく新卒採用に対しても慎重になってきている。
		民間職業紹介機関（職員）	・医療・福祉系の業界でも食材の原材料費が約15%～20%上昇しているが、その上昇分を売価に転嫁できないために、そのしわ寄せを人件費に求めるしかなく、良くならない。
	悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・経営を取り巻く環境の悪化により、企業業績が一段と悪化することが考えられる。正社員需要は一服感があり、派遣社員の需要も落ち着く可能性が高く、一時的に景況感が悪くなる可能性が高い。

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-	
		商店街（代表者）	・夏物商材の出足が良い。これからの夏物バーゲンの商品の出も良くなると見込まれる。これから夏のイベントが目白押しであり、景気は上向きになる。	
		家電量販店（店長）	・この夏はかなり暑くなるという予報が出ており、それに伴って家電の季節商材、冷蔵庫等の売上増加が見込める。それとともにオリンピックの需要が出て、AV機器が今後堅調に推移する。	
			旅行代理店（従業員）	・6月は9月ごろまでの旅行相談・予約が多くあった。これからは夏休み、盆休みにかけて旅行シーズンになるので旅行需要の増加が期待される。
	変わらない		商店街（代表者）	・ガソリンの値上がりによりすべての物価が上昇しているの で、消費になかなか回ってきていない。
			コンビニ（経営者）	・タバコのタスポの関係で売上が上昇しており、3か月後も 同じ推移をすると考えている。
			家電量販店（営業担当）	・エアコンの最盛期を迎えるが、7月からガソリン、食品等 の相次ぐ値上がりも控えており、それが大きく影響する。
			乗用車販売店（従業員）	・販売量が伸びないのは、ガソリン代の高騰が主因である。 燃費の良い自動車は注目されるが、地方の不景気が逆風にな り、一向に良い方向に向かわない。
			乗用車販売店（営業担当）	・4月に新店舗をオープンしたが未だ効果はない。景気が良 ければそれなりの新店舗効果があるはずである。
			通信会社（管理担当）	・業界全体において新しい販売方式が出揃い、端末のサイク ルが落ちてくることが想定される。今後は各年代ごとをターゲ ットとした動きも想定されるが、業界全体に大きな影響はない ものと思われる。
		観光名所（経営者）	・物価がますます上昇しており、レジャー産業への影響を心 配している。	
	ゴルフ場（従業員）	・2～3か月後の予約の状況も、今のところ横ばいである。 前年と比べても客の入りが少し弱い。		
やや悪くなる		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・会社関係等も経費節約しているらしく、月に3,000円くら いの商品を買っていた会社が1,500円、2,000円と経費削減の 方向に進んでおり、企業向けの売行きが鈍っている。来月も 低下すると予想される。	
		スーパー（店長）	・ガソリン価格の更なる上昇や食品の再値上げが続けば、景 気への影響がある。	
		スーパー（企画担当）	・原油価格が今年最高値を記録し、更に20%程度上がる予 想も出ているなか、店頭価格への影響が出てくるものと考えら れる。	
		スーパー（財務担当）	・インフレに対する防衛意識が更に増す。	
		衣料品専門店（経営者）	・来客数減少、必要なものしか買わない単品買い、客単価ダ ウンが常態化している。売上の前年割れは避けられず、いか にマイナスを小幅に抑えるかといった後ろ向きな状況が続 く。	
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格がこれだけ高くなって来ると、300万円以上 の新車を購入する客が公務員・優良企業の社員等に限られて きた。	
		乗用車販売店（管理担当）	・ほとんどの商品が値上げラッシュであるので、車の購入資 金は必要最小限になると懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
企業 動向 関連		住関連専門店（経営者）	・原油高で、ガソリンが上昇しているため、客は慎重になり買い控えとなっている。		
		一般レストラン（経営者）	・毎月のようにガソリン価格が上がり、車社会である地方の負担が大きくなっている。これまでの商品単価の上昇も考えると必要外の買物は大幅に控えられる。		
		観光型旅館（経営者）	・売上が伸びず横ばい状態で、原材料の仕入れにおいても、特に食品関係でどんどん値上がりしており、利益率が悪くなっている。海外旅行が減少、国内旅行の動向も減少気味という状態で、良くなる状況にはない。		
		都市型ホテル（経営者）	・先行きの予約状況は全く芳しくない。客の様子からすると景気はまだ悪くなるととらえており、外で金を使うことがなくなり今よりも悪くなる。		
		観光名所（職員）	・原油価格の上昇によるガソリンの高騰や物価高騰等により、個人客が減少するため今後も厳しい。		
		設計事務所（所長）	・賃貸マンションの家賃相場が全体的に低下してきており、自社マンションでも、家賃を1万円下げてやっと入るようになった。		
	悪くなる		商店街（代表者）	・原油価格の上昇が止まらずコストが上がり続けている。エンドユーザーへの価格は競争もあり、簡単に変えられないので利益確保はますます難しくなる。	
			一般小売店〔酒〕（販売担当）	・酒類、食料品のメーカー出荷価格の高騰は、今後も継続すると見込まれる。	
			百貨店（営業担当）	・先の見えない値上がり状況で、計画的な家計にとって商品の購入が難しくなる。これから先まだまだ景気は悪化する。	
			スーパー（店長）	・今後も更に値上げが続く。特売で牛乳の価格が10円安くなっただけで売行きが大きく違う。以前はなかったことであり、客は価格に敏感で、おいしさ、楽しさは二の次になった。このままでは景気は後退する。	
			スーパー（店長）	・前月に引き続き、建設業界の最大手の倒産があった。原油高、食料の高騰が大きく影響してくる。	
			コンビニ（エリア担当）	・このまま原油高、原料高が続けば、企業の収益が減少する。家計では、実質所得が減ることで国全体に大きな影響が出る方向に今進んでいる。	
			衣料品専門店（経営者）	・消費者の身の回りのものすべてが物価上昇し、企業も原材料の上昇で経営が悪化して給料も上がらず、悪循環になっている。	
			衣料品専門店（経営者）	・7月はバーゲンの月に入ってきている。不況時のバーゲンはよく売れるので7月は期待しているが、8月の益以降がこのままだと相当厳しい。	
			衣料品専門店（経営者）	・ガソリン価格の上昇、その他物価の上昇により服の買い控えが起きている。	
			その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・ますます可処分所得の減少によって外食比率が下がってくる。	
	やや良くなる 変わらない やや悪くなる	やや良くなる	-	-	
			変わらない	木材木製品製造業（経営者）	・所得が横ばいで物価がどんどん値上がりをする。家余り現象で家の資産価値がなくなっている。特にマンションに関しては、相当売値が安くなっており、客の買い控えの影響がある。
				建設業（経営者）	・鋼材や燃料の値上がりで利益がますます減少する。
建設業（総務担当）		・ある程度の受注は確保できているが、今後とも資材の高騰が見込まれ収益の回収は困難となる。			
広告代理店（経営者）		・エネルギー・原材料等の値上げもあり、各得意先の売上不振の影響で販促広告予算が減少している。また紙の値上げで印刷等の仕入れ関係も高騰しており価格競争も厳しくなる見込みである。			
やや悪くなる		繊維工業（経営者）	・食品、ガソリン等の生活物資の値上りが激しく、今後消費マインドが一層冷え込み、繊維製品の消費にも影響が出てくることは必至である。		
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・油、諸資材の値上げに対して販売が追いつかない上、小売店の抵抗が強いために採算がなかなかとれない。今のままでは景気は落ち込んでしまう。		
		一般機械器具製造業（経理担当）	・仕事量の減少、燃料高、資材高騰が重なり、ユーザーとの商談自体が減っている。しばらくこの状況は続く。		
輸送業（役員）		・取引先の調達原価も軒並み上昇している上に、物流業界は燃料の異常高騰により、運賃になかなか転嫁ができない状況である。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		不動産業（経営者）	・取引先、同業者で、在庫が全然はけないという声が聞こえてくる。広告を打っても反響が少なく、銀行の住宅ローンに対する厳しい対応も見られることから、今後は我々の業界はかなり厳しくなる。
		広告代理店（経営者）	・原油・原材料価格の低下が見込めない状況で自助努力にも限界がある。
		公認会計士	・各企業の経営者の方と話をすることがあったが、将来の物価の高騰を非常に気にしており、「設備投資ができる環境ではない」と言っている。また資金繰りに関して、「銀行の融資態度も十分ではない」という声が多いようである。
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・求人者数の増加が順調であり、過去の累計で、4月3,606人、5月4,016人、6月26日現在4,273人と、順調に伸びている。
	変わらない	-	-
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・景気が良くなる材料が乏しく、過去3か月と比べると求人数も減ってきている。
		職業安定所（職員）	・5月の新規求人は対前年同月比8.6%、323人減少した。
		職業安定所（職員）	・新規求人数も減少に転じ、企業の採用意欲に陰りが見え始めた。
悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ガソリン価格の急激な上昇が物価全体を大幅に押し上げ、消費がますます縮小していく。	
	職業安定所（職員）	・ガソリン税の暫定税率で公共事業が一時凍結した余波と、改正建築基準法の影響で建設業関係を中心に淘汰が進んでいる。原油高も安定する見通しが無い。	

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	競輪場（職員）	・売上の上昇率が前年に比べ大きく、今後更に増加が期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街の空き店舗が増えつつある。またガソリンの値上げ、諸物価の値上げで客の財布のひもがかなり固くなっている。懸命に売り出し、サービスをしているが、なかなか商品の売上につながっていない。
			・年配客が多い当商店街では、高齢者の医療制度の問題等が良くなる見通しが無いため、景気の先行きが不安である。
		百貨店（営業担当）	・月初に実施したクレジットカード催事が好調であった。現金還元効果が大きい。また、新規入会より既存のカードホルダーの利用が多く、プロパー商品を事前に吟味して購入している。値ごろ感のある商品を購入するという慎重な姿勢が続いている。
		百貨店（営業推進担当）	・原材料の値上がりによる生活必需品の値上がりが顕著で、値段が高くても買わないといけないものへの出費がかさむ。ぜいたく品といわれるブランド品への出費が抑制される傾向は今後も続く。
		スーパー（総務担当）	・客は、必要最低限の食料品だけは買いそろえ、衣料品、住居用品の購買になかなか結びつかない。この状況は今後も続く。
		スーパー（企画担当）	・石油製品や食品全般の値上げにより、消費動向は徐々に冷え込んでいる。年末に次いで売上が大きいお中元の売上に大きく影響を及ぼすことが懸念されるが、現状の運営努力の中で何とか持ちこたえられそうである。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・タスポカード導入による店頭販売増加の効果はいつまでも続かないため、今のままの来客数が続く。客単価の上昇も期待できない。
		乗用車販売店（販売担当）	・来客数の動きと販売量がなかなか比例しないというのがここ1年くらい続いており、当面変わらない。
高級レストラン（経営者）		・予約状況をみると、会社関係の予約が少しずつではあるが入ってきている。ただ、単価を下げてほしいという客の要望があり、今までは断ってきたが、今は品数を減らして料金を下げるといった対応をしていかないと客を確保できない。この傾向が今後も続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・NHK大河ドラマの影響で上向きと言われているが、実際に仕事をしている者からみると、半年たってもその効果が出ていない。先行きは不透明である。
		旅行代理店（従業員）	・6月中旬ごろから来客数は増えたが、まだ予約につながらない。パンフレットをたくさん持ち帰る客が増えている。じっくり検討して予約するようだ。
		タクシー運転手	・会社関係の接待が少なく、これから先もあまり望めない。また、夜の繁華街の客が非常に少なく、店を閉めたところがたくさんある。
		美容室（店長）	・いろいろな物の値上がりでどうやって節約しようか考えてしまうと言う客もいる。当分は景気が悪い。
		住宅販売会社（従業員）	・物件の単価は下がってきているが、問い合わせの件数が多くなってきているので、それを成約していけば景気は変わらない。
	やや悪くなる	百貨店（売場担当）	・消費者が生活防衛に入っていることが懸念材料である。ボーナスは貯蓄や生活費の補てんに回るため、衣料品、ぜいたく品、高額品等は引き続き売れない。特に今年は夏にオリンピックがあるため、家でテレビを見る消費者が増え、売上は例年より更に悪くなる。
		百貨店（営業企画担当）	・ガソリンや小麦等の価格高騰による客の買い控えなどの影響が今後も考えられるため、売上の低迷は続く。
		百貨店（営業担当）	・必要なもの以外は購入しないという、購入のシビアさがますます強くなっていく。
		百貨店（業務担当）	・岩手・宮城地震の発生もあり、消費マインドを喚起するどころか、災難や災害に対する備えや貯蓄性向が高まっている。これから衣料品の夏物処分に入るが、価格訴求をしても、必要のないものは買わないという傾向は強まっており、今後も悪くなる。
		スーパー（店長）	・食品、生鮮関係の商品の値上げ傾向は続く。現状でも販売量がかなり落ち込んでおり、今後も悪くなる。
		スーパー（店長）	・インストアペーカリーが苦戦するなか、規格が決められ、価格調整した包装パンは好調である。今後は価格上昇を冷静にとらえ、収支のバランスを判断しながら商品を選ぶ必要がある。
		スーパー（店長）	・ますます節約志向、生活防衛意識が高まり、金の使い方に格差が出てくる。必要なもの以外は購入しない傾向は続く。買い回り性の高い商品については買い控えが起こる。
		コンビニ（販売促進担当）	・食品の価格が値上がりするなか、食パンを1斤買うよりは米の方が安いということで、食パンの販売量が減っている。ガソリン等、様々な商品が値上がりするなか、まず切り詰めるのは食費で、パンを含めたし好品の購入はやや下降する。
		衣料品専門店（店員）	・客単価が相当落ちているなかでは、3か月後の秋物の立ち上がりも厳しくなる。さらに残暑が続けば、これも不調の要因となる。ガソリン価格のほか、住民税等も上がっているため、すべての要素で景気が良くなるわけがない。今後、物販は更に厳しくなる。
		衣料品専門店（総務担当）	・ガソリン単価の上昇により、車での来客数が減少している。駐車場の空きが目立ち、売上減の原因となっている。
		家電量販店（店員）	・ガソリンや生鮮食料品、加工品まで値段が上がると、耐久消費財に金を出そうという気持ちが薄らいでいくため、景気はより悪くなる。
		乗用車販売店（管理担当）	・ボーナスが車の買換え需要を高めるには至らない。燃料費の高騰や物価の上昇で、なかなか需要を喚起するまでは望めない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・7月の燃料油の仕入価格も上昇の予定である。客の様子は、燃料油購入についてますます慎重になっていく。ファミリー客からは、遠出のドライブをからめたレジャーを控え、近場の家族全員が楽しめるゾーンへのレジャーにシフトする、という話が聞こえてくる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・婚礼件数が伸び悩んでおり、各部門は部門予算を達成するのが精一杯で、婚礼部門の売上の減少をカバーできない。また、原価も徐々に上がってきており、利益率も悪化している。
		観光型ホテル（営業担当）	・予約は今後も現状維持だが、食材・飲料などの値上げがリスクとなってくる。単純に宿泊料の値上げは難しく、仕入材料の検討が余儀なくされる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ） タクシー運転手 観光名所（職員）	・夏季の冷房等のエネルギー使用料の増額が経営を圧迫することが懸念される。 ・物価の上昇から、タクシー等の交通機関の利用は少なくなる。 ・石油やガソリン、生活必需品の値上げから、消費者は観光を控える。ゴルフ需要も低下する。
	悪くなる	百貨店（販売促進担当） スーパー（店長） スーパー（店長） コンビニ（エリア担当）	・物価の上昇に耐えられるほど給料が上がっていない。客からは、単価の安いものが欲しいとの声が急増している。今後消費が伸びる要素が見込めない。 ・原油価格が180円台になりそうである一方、個人所得は上がっていない。ボーナスも期待できず、ギフト商戦も苦戦する。客単価も落ちそうである。 ・メタボリック検診の開始や少子高齢化による食品の絶対消費量の減少が今後ますます顕著になる。さらに、物価高による生活防衛意識の高まりで、先行きは明らかに暗い。現にアルコール販売は前年比2けたの減少となっている。 ・このまま物価上昇が続くと、客の動きも鈍くなり、店としても成り立たない状況になる。tasポカード導入による店頭販売増の効果も徐々に下がりつつあり、今後の見通しが立たない。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	- 農林水産業（経営者） 一般機械器具製造業（経営者） 経営コンサルタント	- ・梅雨明けの鶏肉の需要はかなり期待できる。特に今年の夏は暑くなると予想されるため、需要に一層拍車が掛かる。ただ、相次ぐ食肉の偽装問題や諸物価の値上がりりが少し心配である。 ・環境対策用自動車部品の量産が本格化するため、当分は忙しくなりそうである。 ・全般的には厳しい状況が続く。ただし、ボーナスの支給時期であり、ある電気店ではオリンピック効果でテレビの売上がかなり増えているという話を聞く。今後は若干プラスになる要因が出てくるのではないかと。ガソリンの上昇もこれから一息つき、少し下がってくれば、消費者の動きも変わってくる。
	変わらない	食料品製造業（経営者） 窯業・土石製品製造業（経営者） 金融業（得意先担当）	・前年と比較すると、業績は安定して上向き傾向であるが、前年の業績の落ち込みから少し回復したに過ぎない。NHK大河ドラマの効果はあるものの、これ以上過度の期待はできそうにない。 ・消費の低迷から、原材料価格の値上がりが厳しいなかでも製品価格の値上げがなかなか難しい。現在の受注状況も悪く、今後もこの傾向が続く。 ・取引先の倒産も落ち着きを取り戻しているが、依然としてかなり厳しい取引先も多く、今後について予断を許さない。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者） 家具製造業（従業員） 鉄鋼業（経営者） 金属製品製造業（企画担当） 電気機械器具製造業（経営者） 建設業（総務担当）	・飼料価格が現時点ではある程度高い状態であるが、更にまだ上がるという予想が立てられている。包材も上がるという予想もたてられているので、今後はやや悪くなる。 ・建築確認申請の遅れによる問題だけでなく、原材料等が大幅に上がったため、建築コストも上昇した。ゼネコンも価格上昇をオーナー側に転嫁できず、業者にしわ寄せが来ている。また、建築コストが大幅に上昇したため、着工を取りやめたり、計画を変更する等の影響が深刻である。 ・原材料価格の高騰が止まらず、製品価格への転嫁を余儀なくされているが、製品価格の高騰による建築コストの上昇につながるため、新規建築物件が停滞する可能性が高い。 ・原材料価格の値上げがじわじわと収益を圧迫しつつある。また、ガソリンの高騰により、運賃値上げ要求も厳しくなり、応じざるを得ない状況である。 ・全国的な傾向として、金型関連のすべての業種では、大手、中堅企業とも今後の生産計画が非常に立てにくいと聞いている。足元の生産に追われるという状況が秋口まで続く。先行きは非常に不安である。 ・計画では既に着工しているべきマンションの契約が、資材の高騰で着工の目途が立たなくなっている。代替りの仕事はすぐに受注できないので大変である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（従業員）	・ガソリン価格の高騰で先行きに明るい話はない。運送業や倉庫業等の物流業は、生活に必要なための物資を運んでいるにもかかわらず、まずメーカーはここから切り捨て、値下げを要求してきている。このような状態が続くと、物流業はつぶれていき、生きていくために必要な物資が届かないという状況に陥る。厳しい状況が続いていく。
		金融業	・収益性の向上は望めない。体力勝負となれば、持ちこたえるのが難しい中小、零細企業が出てくる。取引先の破たんが連鎖を起こす可能性もある。
		広告代理店（従業員）	・6月の新聞折込広告の受注量は、前年を超えることができなかった。例年であれば学習塾の夏季講習のチラシがたくさん折り込まれるが、今年は大手の学習塾が募集するチラシが主力で、個人経営の学習塾のチラシが極端に減少した。印刷代の値上がりに加え、これまでのように塾の掛け持ちが経済的にできなくなり、生徒が集まらなくなったようである。また、これから中元商戦に突入するが、反応は良くない。
		経営コンサルタント	・消費者の買い控えがさらに進む。メーカーの体質改善が進まず、資金難が進み、倒産する可能性が大きくなる。
	悪くなる	建設業（従業員）	・原油価格の高騰による原材料の値上がりに伴い、利益の確保が難しい。地域経済の停滞により、企業がなかなか設備投資をしないなど、景気は悪くなっている。また、建築確認申請の遅れも景気を悪くしている。この傾向が今後も続く。
		輸送業（従業員）	・6月は軽油価格が過去最大の値上がりをする見込みで、これ以上の値上がりには企業努力だけでは対応し難い。燃料サーチャージ等の価格転嫁が進まないと、同業者はもちろん他業種でもやっていけなくなる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・今年の秋に開業する大型商業施設からの大量求人が予想されるため、やや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・雇用のニーズはあるが、職種がある程度限られている。正社員化を進める企業も多いが、それは景気が上向きという理由ではなく、国の施策によるところも大きい。
		人材派遣会社（社員）	・物価の上昇により、景気は悪くなっている。人件費についても、増員してまで対応する企業は増えない。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ガソリンの高騰等で、物流関係の求人が落ち込んできている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当面、原油高騰の影響は続くと思われる。特に製造業を中心に厳しい状況が続く。企業の求人も、パート、アルバイト等の雇用調整のきくところから減る可能性も高く、2～3か月先以降年内は景気の悪化は避けられそうにない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は、多くの産業で前年比減という状況が続いている。特に卸売・小売業については、これまで出していた求人を更新しないとすると事業所も多く、減少傾向が長く続いている。この原因として、物価上昇等による消費の低迷が挙げられる。今後、更に物価は上がる見込みであり、景気の悪化が懸念される。
		民間職業紹介機関（社員）	・景気の先行きが不透明なことから、派遣業務そのものを見直す動きがある一方で、繁忙期のみ派遣活用を検討する動きも出てきており、長期の派遣活用から短期断続的な活用への動きが強まってきている。日雇い派遣大手の廃業に伴う業務依頼や問い合わせは今のところない。
	悪くなる	学校〔大学〕（就職担当者）	・これからの夏採用、秋採用の動きは鈍化する。前年度までの積極採用の動きが変わってきた。
		人材派遣会社（社員）	・先行き不安から先駆けて人員調整に入る企業と、業績が良く正社員への転換を進める企業に二極化している。
民間職業紹介機関（支店長）		・人材派遣ビジネスは、第1四半期の状況で決まる。景気後退局面で需要が伸びることもあるが、業界大手企業の不祥事等で、逆風が更に強まった感がある。	

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（エリア担当）	・タスポ効果で集客力、収益の増加は見込める。この傾向はしばらく続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	百貨店（担当者）	・やはり一番の懸念材料は物価高の影響であり、今後卵の値上がりや出漁の抑制から来る漁獲量の縮小など、消費者の不安は増すばかりである。産油国による原油増産のニュースなどが聞かれるものの、簡単に消費マインドは改善されない。
		スーパー（経営者）	・業績はほぼ前年並みで推移しており、この状況はしばらく続く。しかし、原油高も依然と続いており、それに伴い食料品の値上げが今後も続けば、やや悪くなる可能性もある。
		衣料品専門店（経営者）	・このところ、世の中で値上げの話などが結構あるなか、衣料品については、今のところさほどの変化は見当たらない。この夏もあまり変わらない。
		観光型ホテル（商品企画担当）	・トップシーズンとなるが、結果としては前年並みの稼働率にはなる。販売受注ペースが前年に対して遅い状況である。
		通信会社（サービス担当）	・ガソリン値上げ、他商品値上げ等で客の財布のひもが固くなり、良くなる材料が見つからない。
		ゴルフ場（経営者）	・キャディを付けないセルフプレーが多くなっている。それによって料金が下がり、キャディ料金の分だけ収入が減少する。入場者数を増やすためにその傾向が更に増えるという危惧があり、キャディの生活が危ぶまれる状況は今後も続く。逆に、冬場のキャディの需要が多いときにどう対応するかが、今までセルフでのプレーをやってきたゴルフ場の最大の課題になる。
やや悪くなる		コンビニ（エリア担当）	・値上がりストップの出口がみえておらず、今後も低迷すると判断する。
		家電量販店（総務担当）	・オリンピックなどのプラス要素はあるものの、食料品を始め、価格高騰の波がどこまで続くのか不透明なため、現在の買い控え傾向はまだ続く。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・諸事情による物価高で経費の増加と仕入れの値上げが続く。
		通信会社（店長）	・現在、夏の新商品の発売時期でありながら販売量は前年を下回っているため、今後も冬の新商品投入時期までは下降傾向が続く。
		観光名所（職員）	・全国に広がる諸物価の高騰により、国民の節約ムードは強まり、旅行環境はますます厳しくなる。県外からの観光客に頼る沖縄観光もこれまでのような入域観光客の増加は厳しい。
悪くなる		商店街（代表者）	・那覇の中心商店街では、国際通りも含め、観光土産品店が多くなり、それも頭割れで大変悪戦苦闘している様子で、一般の最寄り品と買回り品もだんだん店が少なくなっている。郊外の方に出かけるので、日々売上は落ちているような話が多く聞かれる。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・景気が悪くなると真っ先に削られるのは趣味・娯楽にあてられる金である。今後も家計が厳しい状況になるのは目にみえている。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・天井知らずの値上げで原価調整が厳しい上に、地元客の飲食が激減している。観光客も前年に比べると、使うお金が少なくなって、平均単価が200円ほど下がっている。また、雇用関係の法律が厳しくなって、店舗の負担が大きくなっている。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	輸送業（代表者）	・8月後半から公共工事の集中発注が始まるため、現状の好調さが堅調に推移する。
		広告代理店（営業担当）	・前月からの改善要件が見当たらないことから、今後の景気に明るい兆しを感じられない。県内企業の動向をみても、積極的に販促費を投入する動きはほとんど目立たず、テレビや新聞等のローカル媒体費の出稿量も減少傾向にある。
	やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・燃料費高騰、原料価格上昇はまだまだ続く傾向がある。
悪くなる	-	-	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	-	-
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・石油や諸物価の値上げにより、企業が危機感を持ち始めている。社員が退職した後の補充を見合わせたり、また派遣の条件も少しずつ厳しくなり引き締め感が大きい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・県内景気はおおむね横ばい、先行きは一進一退との話が聞かれるが、県内大手ホテルの閉鎖、公共機関の支援が無く清算される海運会社等、このまま原油価格、原材料価格が高止まりの状況が続くと、物価の上昇、個人消費の低下、生産性、経済活動の停滞が懸念される。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・原油卸値の上昇により社会的に不安要素が多いため、業界によってはかなりのリストラを施さなければ企業が生き残れなくなる状況もあり、人員削減など雇用に対する厳しい措置を講じる企業が増える。
		学校〔大学〕（就職担当）	・景気動向が弱含みのため、求人採用に従来の勢いがみられない。
	悪くなる	求人情報誌製作会社（営業担当）	・大手メーカー企業や運輸関連は原油高による業績の更なる悪化傾向を感じており、求人活動の鈍化が更に進む傾向がある。